別紙様式１

神戸大学附属中等教育学校	文理融合基礎枠
指定第Ⅱ期目	07～11

❶令和７年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

①　研究開発課題

生涯を通じて共創知を創出し続ける人材の育成を目指すカリキュラム開発

―Education for 2075―

②　研究開発の概要

顕在的カリキュラムとして、個別最適かつ協同的な課題研究および、学問領域協働的な教育課程を開発する。また、潜在的カリキュラムとして、学究の学校文化の形成を目指し、生徒の自治的学習コミュニティを支援するとともに、多様な課外活動を実施する。評価も文理融合的に行い、量的指標に加え、カリキュラムによる生徒の変容を質的にも記述する。

③　令和７年度実施規模

全日制課程　普通科　中等教育学校　（令和７年５月１日現在）

	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年	計
生徒数	121	121	118	122	113（74）	114（75）	709
学級数	3	3	3	3	3	3	18

※第５学年及び第６学年については人文・社会科学類型／自然・生命科学類型に選択を分けているが、学級を類型別に編成していないため、後者の生徒数のみ内数で表示。

※SSH の実施規模は全校生徒を対象に実施。

④　研究開発の内容

〇研究開発計画

第１年次

目標　SSH 事業全体：第４学年の推進　　課題研究：６年一貫カリキュラム推進

研究事項・実践内容

研究開発単位Ⅰ：「課題研究基礎Ⅰ」（1 年）、「課題研究基礎Ⅱ」（2 年）、「課題研究Ⅰ」（3 年）、「課題研究Ⅱ（学術探究）」（4 年）、「課題研究Ⅲ」（5 年）、「課題研究Ⅳ」（6 年）実施

研究開発単位Ⅱ：制度面の整備、支援体制の見直し

研究開発単位Ⅲ：「データサイエンスⅠ」（4 年）、「科学総合Ⅰ」（3、4 年）、「ESD」（4 年）、「情報工学」（3、4 年）、「探究英語Ⅰ」（4 年）、「データサイエンスⅡ」（5 年）、「探究英語Ⅱ」（5 年）、「探究英語Ⅲ」（6 年）実施

研究開発単位Ⅳ：FIT 実施

研究交流・成果発信

SSH ウェブサイト：開設・実施報告書掲載　SSH 事業に係る各種報告会：SSH 報告会開催

課題研究発表会：課題研究発表会開催

成果普及研修会：オンライン研修会実施　研究交流：兵庫「咲いテク」事業参加

第２年次

目標　SSH 事業全体：第５学年の推進　　課題研究：６年一貫カリキュラム推進

研究事項・実践内容

研究開発単位Ⅰ：第１年次の内容を継続するとともに、「課題研究Ⅲ（学術探究）」（5 年）実施

研究開発単位Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ：第１年次の内容を継続

研究交流・成果発信

SSH ウェブサイト：第１年次の内容を継続　SSH 事業に係る各種報告会：SSH 報告会で授業公開

課題研究発表会：第１年次の内容を継続　成果普及研修会：第１年次の内容を継続

研究交流：第１年次の内容を継続

第３年次

目標　SSH 事業全体：第６学年の推進　　課題研究：６年一貫カリキュラム完成

研究事項・実践内容

研究開発単位Ⅰ：第２年次の内容を継続するとともに、「課題研究Ⅳ（学術探究）」（6 年）実施、学術探究の評価の充実

研究開発単位Ⅱ：教員の関わり方の再検証

研究開発単位Ⅲ/Ⅳ：第２年次の内容を継続

研究交流・成果発信

SSH ウェブサイト：第２年次の内容を継続　SSH 事業に係る各種報告会：第２年次の内容を継続

課題研究発表会：第２年次の内容を継続　成果普及研修会：第２年次の内容を継続

研究交流：第２年次の内容を継続

第４年次

目標　SSH 事業全体：事業の振り返り　　課題研究：課題研究の改善

研究事項・実践内容

研究開発単位Ⅰ：学術探究の評価の改善

研究開発単位Ⅱ/Ⅳ：事業の改善

研究開発単位Ⅲ：カリキュラムの見直し

研究交流・成果発信

	SSH ウェブサイト：第 3 年次の内容を継続　SSH 事業に係る各種報告会：第 3 年次の内容を継続 課題研究発表会：第 3 年次の内容を継続　成果普及研修会：研修会の改善 研究交流：第 3 年次の内容を継続
第 5 年次	目標　SSH 事業全体：事業の完成　　課題研究：課題研究の向上 研究事項・実践内容 研究開発単位Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ：事業の向上、事業の総括 研究交流・成果発信 SSH ウェブサイト：第 4 年次の内容を継続　SSH 事業に係る各種報告会：第 4 年次の内容を継続 課題研究発表会：第 4 年次の内容を継続　成果普及研修会：第 4 年次の内容を継続 研究交流：第 4 年次の内容を継続

○教育課程上の特例　※中等教育学校における教育課程の特例も併用

開設科目名	単位数	代替科目	単位数	履修者
ESD	1	公共	1	第 4 学年全員
代替措置：科目「公共」の内容のうち 1 単位分を科目「ESD」で扱う。なお，残りの「公共」1 単位分の内容は前期程へ移行し，前期課程社会科の授業時間数を 35 時間増加させる。				
データサイエンスⅠ	2	数学Ⅰ	3	第 3，4 学年全員
基幹数学	4			第 4 学年全員
		理数数学Ⅰ	3	
代替措置：「数学Ⅰ」の内容は全て「データサイエンスⅠ」もしくは「基幹数学」で扱う。なお「データサイエンスⅠ」の内容のうち 1 単位分を前期課程へ移行し，前期課程数学科の授業時間数を 35 時間増加させる。第 4 学年で「基幹数学」4 単位および「データサイエンスⅠ」1 単位を開講する。				
科学総合Ⅰ	6	物理基礎	2	第 3，4 学年全員
		化学基礎	2	
		生物基礎	2	
代替措置：「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」の目標は全て「科学総合Ⅰ」で達成する。なお「科学総合Ⅰ」内容のうち 2 単位分を前期課程へ移行し，前期課程理科の授業時間数を 70 時間増加させる。第 4 学年では「科学合Ⅰ」4 単位を開講する。				
探究工学	2	情報Ⅰ	2	第 3，4 学年全員
代替措置：「情報Ⅰ」の目標は「情報工学」で達成する。なお「情報工学」の内容のうち 1 単位分を前期課程へ移し，前期課程技術家庭科技術分野の授業時間数を 35 時間増加させる。第 4 学年では「情報工学」1 単位を開講する				
探究英語Ⅰ	3	英語コミュニケーションⅠ	3	第 4 学年全員
代替措置：「英語コミュニケーションⅠ」の目標は「探究英語Ⅰ」で達成する。				
学術探究	2	総合的な探究の時間	2	第 4 学年全員
代替措置：「総合的な探究の時間」の目標は，教科「探究」における科目「学術探究」で達成する。				

○令和 7 年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項

課題研究に関する教科・科目は以下の表の通りである。

1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
課題研究基礎Ⅰ（総合的な学習の時間）	課題研究基礎Ⅱ（総合的な学習の時間）	課題研究Ⅰ（総合的な学習の時間）	課題研究Ⅱ（学術探究）	課題研究Ⅲ（総合的な探究の時間）	課題研究Ⅳ（総合的な探究の時間）
75 時間	70 時間	70 時間	2 単位	2 単位	1 単位

その他 SSH に関連する教科・科目の名称や内容は以下の表の通りである。

データサイエンス（以下ＤＳ）	開講学年・単位数	1 年・2 年	「数学」各 140 時間のうち〔データの活用〕分野
		3 年	「数学」140 時間のうち〔データの活用〕分野 ※「DS Ⅰ」の学習内容を 1 単位分移行
		4 年	「DS Ⅰ」1 単位　※本事業外として「理数数学Ⅰ」の残りおよび「理数数学特論」の一部を統合して扱う「基幹数学」を並行履修
		5 年	「DS Ⅱ」1 単位　※本事業外として「理数数学Ⅱ」「理数数学特論」を並行履修
		6 年	（「課題研究Ⅳ」におけるデータ処理にて適宜指導。）
	目標	「DS Ⅰ」：確率や統計について基礎的な理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図るとともに、量的データを数学的に考察し表現する能力および活用する態度を育て、量的研究において活用できるための基礎的な力を養う。 「DS Ⅱ」：確率や統計についての理解を広め、知識の習得と技能の習熟を図るとともに、量的データを数学的に考察し表現する能力および活用する態度を育て、量的研究において活用できる力を養う。	
	内容	主に統計学の discipline に基づき、以下を扱う。 「数学」（1 年～3 年）：中学校課程の〔データの活用〕分野に加え「理数数学Ⅰ」〔データの分析〕および〔場合の数と確率〕の一部やその発展的内容を扱う。 「DS Ⅰ」：「理数数学Ⅰ」〔データの分析〕の残りの内容ならびに「理数数学Ⅱ」〔統計的な推	

		測〕の一部および発展的な内容を扱う。 「DSⅡ」：「理数数学Ⅱ」〔統計的な推測〕の残りの内容および発展的内容を扱う。	
	教育課程特例	確率・統計に係る教育課程を情報科学の discipline を交えて扱うため、既存の科目でなく学校設定科目の設定を要する。必履修科目「数学Ⅰ」に含まれる内容はすべて「DSⅠ」および「基幹数学」で指導するため、「数学Ⅰ」は開講しない。	
科学総合	開講学年・単位数	1年・2年	「理科」各 140 時間　※中学校の学習内容を学年間で移行
		3年	「理科」175 時間　※「科学総合Ⅰ」の学習内容を 2 単位分移行
		4年	「科学総合Ⅰ」4 単位
		5年・6年	人文・社会科学類型のみ「科学総合Ⅱ」4 単位を分割履修　※自然・生命科学類型は本事業外で「理数物理」「理数化学」「理数生物」を履修
	目標	「科学総合Ⅰ」：日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を育てる。 「科学総合Ⅱ」：日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、良識ある公民として必要な科学観を育てる。	
	内容	「理科」および「科学総合Ⅰ」：主に物理学・化学・生命科学・宇宙地球科学の 4 つの discipline に基づき、中学校課程理科・高等学校「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の全部から重複内容を精選するとともに、学習指導要領理数科の「理数探究基礎」の内容の一部を加え、計 17 単位相当の中で学習順序を適宜入れ替えて一体的に運用する。 「科学総合Ⅱ」：5 年次は引き続き 4 つの discipline を全て扱い、6 年次は 4 つの discipline から 2 つを選択し、「科学総合Ⅰ」の内容をさらに発展させる。	
	教育課程特例	物理学・化学・生命科学・宇宙地球科学の各 discipline を統合した指導を行い、それと一体化して discipline を統合した観点から評価するため、学校設定科目の設置を要する。「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」で扱う内容はすべて「科学総合Ⅰ」で指導するため、これら 4 科目及び「科学と人間生活」はいずれも開講しない。	
情報工学	開講学年・単位数	1年	「技術家庭」のうち技術分野 35 時間　※中学校の内容を学年間で移行
		2年	「技術家庭」のうち技術分野 52.5 時間　※中学校の内容を学年間で移行
		3年	「技術家庭」のうち技術分野 35 時間　※「探究情報」の学習内容を 1 単位分移行
		4年	「探究情報」1 単位
		5年・6年	（「課題研究Ⅲ」「課題研究Ⅳ」の中で適宜ものづくりや情報活用）
	目標	情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方とものづくりの技能を習得させ、情報を用いた社会の持続的な発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。	
	内容	主に情報科学の discipline に基づき、STEAM 教育における Technology（技術）および Engineering（工学）の観点を重視しながら、中学校課程の技術分野および「情報Ⅰ」の全部ならびに「情報Ⅱ」の一部を精選して、計 4.5 単位相当の中で学習順序を適宜入れ替えて一体的に運用する。	
	教育課程特例	STEAM 教育を積極的に実施し、ものづくりの観点を指導および評価に取り入れるため、学校設定科目の設定を要する。「情報Ⅰ」で扱う内容はすべて「情報工学」で開講するため、「情報Ⅰ」は開講しない。	
ESD	開講学年・単位数	1年・2年	（地理的分野および歴史的分野の中で環境問題・防災や科学技術史と社会構造の関わりなどに関する内容を適宜扱う）
		3年	「社会科」140 時間の公民的分野のうち ESD に係る内容 ※「公共」の学習内容を 1 単位分移行
		4年	「ESD」1 単位
		5年・6年	（「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」の中で環境問題・防災や科学技術史と社会構造の関わりなどに関する内容を適宜扱う）
	目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断する力の基礎を養い、将来において持続可能な開発を担う一人として必要な能力と態度を育てる。	
	内容	主に倫理学、法学、政治学、経済学などの discipline に基づき、中学校課程公民的分野および「公共」のそれぞれ一部について、「環境」「国際理解」「世界遺産や地域の文化財」「エネルギー」「防災」「生物多様性」「気候変動」「その他」からなる ESD の 8 つの領域に焦点を当てて扱う。	
	教育課程特例	教科や分野をまたぎ、持続可能な開発に係る様々な題材を扱うため、学校設定科目の設置を要する。「公共」で扱う内容の一部を本科目で、残りは前期課程の「社会」で指導するため、「公共」は開講しない。	
探究英語	開講学年・単位数	1年～3年	「外国語科」各 140 時間の中で一部 ESD に係る単元
		4年	「探究英語Ⅰ」3 単位
		5年	「探究英語Ⅱ」4 単位
		6年	「探究英語Ⅲ」4 単位

	目標	「探究英語Ⅰ」：英語によるコミュニケーション能力を活用し、相手の個性を尊重する態度を育成するとともに、地球規模の課題に関する情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を育成する。 「探究英語Ⅱ」：英語によるコミュニケーション能力を活用し、相手の個性を尊重する態度を育成するとともに、地球規模の課題に関する情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 「探究英語Ⅲ」：英語によるコミュニケーション能力を活用し、相手の個性を尊重する態度を育成するとともに、地球規模の課題に関する情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。
	内容	中学校課程の「英語」および「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」で扱われる文法事項および単語を含むように、ESD に係る様々な論題に関する 5 領域統合型の言語活動を通して、内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning, CLIL)を行う。
	教育課程特例	英語の技能のみに留まらず、地球規模の課題に係る CLIL を行うため、学校設定科目の設置を要する。「英語コミュニケーションⅠ」で扱われる内容を「探究英語Ⅰ」で全て指導するため、「英語コミュニケーションⅠ」は開講しない。

課題研究とその他教科・科目との連携は以下の表の通りである。

科学総合	連携内容	第 3 学年に移行する学習内容として、新学習指導要領「理数探究基礎」の内容の一部を扱う。系統的に扱った科学の探究技能を、「課題研究Ⅲ」以降で積極的に活用する。
	学習内容例	・計量器具の誤差の実験的検証を通じて実験手技と数値データ処理を共に学習。 ・ルーブリックを参考にしたレポート執筆により理工系の文章・図表の規範を習得。
DS	連携内容	第 4 学年・第 5 学年で統計学の基本的な技法を実際のデータ分析を用いて系統的に習得し、「課題研究Ⅱ」以降での定量的データ分析に活用する。
	学習内容例	・気象庁のオープンデータを活用し、気象予測を題材に回帰分析の手法を習得。 ・異なる 2 つの観察実験データの比較を題材に、仮説検定の手法を習得。
探究英語	連携内容	第 6 学年の「探究英語Ⅲ」にて、「英語表現Ⅱ」と連携し、自らの課題研究の内容について英語でコミュニケーションを取る活動を行う。
	学習内容例	・卒業論文についての英文要旨を制作する。 ・自らの卒業研究についての Lightning talk を英語にて行う。

○具体的な研究事項・活動内容

１　研究開発単位Ⅰ：Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト

第 1 学年から第 3 学年までの「総合的な学習の時間」および第 4 学年から第 6 学年の学校設定科目「学術探究」（令和 7 年度は第 5 学年・第 6 学年は移行措置として「総合的な探究の時間」）で課題研究を実施した。ここでは、本校が「真理の探究に携わるための力」の下位区分として設定する「見つける力」「調べる力」「まとめる力」「発表する力」およびそれらの基盤をなす「考える力」（以下「4+1 の力」と称する）の育成を図った。

第 3 学年から第 6 学年では「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「課題研究Ⅲ」「課題研究Ⅳ」を開講した。「4+1 の力」の育成をめざして、生徒個々の関心に沿ったテーマを選択し、個人単位での課題研究に 4 年間で 3 回取り組む。4 学年の生徒を分野ごとに縦割りにしたゼミナールを編成し、授業時間は 4 学年協同でのゼミ活動を行った。

第 1 学年および第 2 学年では、「課題研究基礎Ⅰ」「課題研究基礎Ⅱ」を開講した。ここでは「4+1 の力」の基礎を育成し、ゼミナールの参加に要求される探究技能の育成を、同一学年でのグループ探究および個人探究により行った。

生徒の探究活動を支援する施設「探究ラボ」について、前年度に引き続き実験設備等の整備を図った。これらの過程では、既存の科学技術の枠組みにとらわれない、人文・社会科学のみに係る探究も、「総合知」形成の過程として重視して支援している。

２　研究開発単位Ⅱ：Advanced Science and Technology Academy (ASTA)

課外活動コミュニティとしての「Advanced Science and Technology Academy (ASTA)」を設置した。本コミュニティに参加する生徒は、国際科学技術コンテストへの出場を目標として、協同的な学習に取り組む。また、ASTA への参加および国際科学技術コンテスト国内予選への出場の双方を教職員が積極的に勧奨するとともに、参加に係る諸費用を支援した。更に、実験課題への取り組みを支援するために、①で述べた「探究ラボ」の整備に努めた。

令和 7 年度については、前年度に引き続き科学の甲子園・科学の甲子園ジュニアおよび、日本数学オリンピック・日本ジュニア数学オリンピック、物理チャレンジを重点事業とするとともに、生徒自治組織の育成を一層進め、学究の学校文化形成の中核組織と位置づけた。また、在学時に ASTA に在籍していた卒業生の TA としての活用に向けて検討を進めている。

３　研究開発単位Ⅲ：Education for 2075 学校設定科目

この先 50 年後も重要性が失われない基礎教養として、第 3 学年～第 6 学年で学校設定科目を開講し（第 3 学年においては後期課程の指導内容の一部を前期課程に移行して扱う）、生徒の希望進路に関わらず必履修とした。また、これらと関連した取り組みを第 1 学年・第 2 学年の授業でも行った。開講する学校設定科目はすべて、各々のいわゆる親学問の discipline に軸足を置きつつ、伝統

的には他の discipline で扱われてきた内容にも積極的に越境していくようなカリキュラムを設計した。また、個々の生徒の学びの中で確実に領域を協働させるよう、探究的な学び・対話的な学び・体験的な学びなどを重視した。

第 3 学年・第 4 学年で「データサイエンスⅠ」を開講した。「理数数学Ⅰ」〔データの分析〕〔場合の数と確率〕の全部ならびに新学習指導要領「理数数学Ⅱ」〔統計的な推測〕の一部を扱った。第 5 学年で「データサイエンスⅡ」を開講した。ここでは〔統計的な推測〕の残りおよび発展的な内容に加え、「情報Ⅱ」〔情報とデータサイエンス〕に相当する内容の一部を扱った。また、高度な理数教育を充実させるため、第 5 学年で「理数数学Ⅱ」および「理数数学特論」を開講した。

第 3 学年・第 4 学年で「科学総合Ⅰ」を開講した。前期課程理科および「科学総合Ⅰ」の計 17 単位相当の中で指導の内容を適宜入れ替えて一体的に運用した。主に物理学・化学・生命科学・宇宙地球科学の 4 つの discipline に基づき、学習指導要領における中学校理科・高等学校「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の全部から重複内容を精選するとともに、新学習指導要領理数科の「理数探究基礎」の内容の一部を加えた授業を実施している。第 5 学年・第 6 学年で人文・社会科学類型の生徒に対して「科学総合Ⅱ」を開講した。ここでは、4 つの discipline から第 5 学年で全てを、第 6 学年で 2 つを選択し、日常生活や社会との関連を議論しながら学びを一層深めている。また、高度な理数教育を充実させるため、第 5 学年・第 6 学年で自然・生命科学類型の生徒に対して「理数物理」、「理数化学」および「理数生物」を開講した。

第 3 学年・第 4 学年で「情報工学」を開講した。前期課程技術家庭科の技術分野および「情報Ⅰ」の計 4.5 単位相当の中で指導の内容を適宜入れ替えて一体的に運用した。主に情報科学の discipline に基づき、STEAM 教育における Technology（技術）および Engineering（工学）の観点を重視しながら、学習指導要領における中学校技術家庭科技術分野および「情報Ⅰ」の全部ならびに「情報Ⅱ」の一部を精選した授業を実施した。

第 4 学年で「ESD」を開講した。主に倫理学、法学、政治学、経済学などの discipline に基づき、中学校社会科公民的分野および「公共」のそれぞれ一部について、ユネスコ「平和、人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバル・シチズンシップ及び持続可能な開発のための教育に関する勧告」に定める 12 の知識、技能、価値、態度を育成すべく授業を行った。

第 4 学年で「探究英語Ⅰ」を、第 5 学年で「探究英語Ⅱ」を、第 6 学年で「探究英語Ⅲ」を開講した。学習指導要領における中学校英語および「英語コミュニケーションⅠ」・「英語コミュニケーションⅡ」・「英語コミュニケーションⅢ」で扱われる文法事項および単語を含むように、ESD に係る様々な論題に関する 5 領域統合型の言語活動を通して、内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning, CLIL)を行った。

４　研究開発単位Ⅳ：Future Innovator Training（FIT）

「Future Innovator Training (FIT)」として、主体性・国際性・協同性などの様々な資質を育成する豊富な教育プログラムを開発した。本事業では主として希望者を対象として、生徒に体験的でかつ協同的、時に国際的な学びを提供している。

第 4 学年を対象に「産官学連携事業」を行った。神戸大学を中心に、1 つの研究室あたり数名の生徒の受入を依頼し、最先端の研究を体験させた。

第 4 学年・第 5 学年の希望者から参加者を選考し、台湾・高雄、英国・ケンブリッジで海外研修を行った。台湾高雄市では、現地の協定校と協同で Asian Student Exchange Project (ASEP)事業に参加し、持続可能な開発について協同で探究を行った成果を報告した。英国ケンブリッジ市では、現地の交流校と、科学技術等の授業の共同受講、課題研究の内容の発表を中心とした交流を行った。また、現地の大学や博物館を巡検して伝統的な学術文化とそれを育む学術都市および社会環境について理解および関心を深めた。

第 4 学年～第 5 学年の希望者を中心に、国際交流研修を行った。英国ケンブリッジ大学の学生を講師として受け入れ、ESD 等についての学習を英語で行う事業などを行った。

第 3 学年～第 5 学年の希望者から参加者を選考し、国内体験学習を行った。ユネスコ・ジオパークもしくはエコパークでのフィールドワークならびに臨海実習などを行った。

全学年の希望者を対象に、「FIT Lecture」を開講した。科学技術や持続可能な開発に係る様々な分野の専門家・有識者による講演を本校が主催したり、他組織主催の講演に本校生徒を引率して参加したりすることで、科学技術イノベーションおよび持続可能な開発についての生徒の理解および関心を深めた。ここでは、活動内容に応じて卒業生も TA として活用している。

５　その他付随する事業

指導体制構築のため、先進校の取り組みの視察に努めた。また、兵庫「咲いテク」事業に参加し、兵庫県内の SSH 校と地域の課題について意見交換した。さらに、研究推進委員会が主導し、校内において定期的に全教員が参加する研究会を開いた。研究会のうち一部は校外の講師を招聘し、教職員向けに講演を開いた。

SSH 事業の公開・普及のため、SSH 報告会等の教育関係者を主たる対象とする外部公開行事を 4 回実施し、本校の研究開発成果をのべ 588 名の来校者に公開した。また、小学生や地域の方々を対象にオープンスクールや文化祭を公開し、5,200 名を超える一般の方々に成果を普及した。ウェブサイトを通じて研究成果を公開しているが、ウェブサイトのアクセスは年間約 10 万ユーザであった。

⑤　研究開発の成果　（根拠となるデータ等は「❸関係資料」に掲載。）

本年度は第Ⅱ期指定の初年度として、第Ⅰ期指定の成果を教育課程の中に正式に組み込み、持続可能な体制へと昇華させることに注力した。具体的には、第 4 学年の総合的な探究の時間を学校設定科目「学術探究」に変更し、さらに新科目「情報工学」を開講するなど、カリキュラムの再編を行った。併せて、産官学連携委員会の組織化や、課題研究における安全・倫理審査体制の整備により、研究の質と安全性を組織的に担保する基盤を構築することができた。

１　研究開発単位Ⅰ：Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト

これまで「総合的な探究の時間」として実施してきた活動を、第 4 学年から第 6 学年の学校設定科目「学術探究」として、まずは第 4 学年から教科化した。これにより、本校が重視する「4+1 の力」（見つける・調べる・まとめる・発表する＋考える力）を評価軸とした系統的な指導が可能となった。また、4 学年を分野ごとに縦割りにしたゼミナール編成を引き続き行い、上級生による知の継承が行われた。「探究ラボ」では、第Ⅰ期指定に引き続き、実験設備拡充を継続した。

また、1, 2 年生で実施している「課題研究基礎」について、中学校課程において主に重要である生徒集団の実態に応じた個別性と、高等学校課程において求められる学校全体としての共通性との間で、これまで様々なカリキュラムが試みられてきたが、個別性を損なわずかつ学校としての共通性も担保できるようなモデルカリキュラムの策定に向けて議論を始めることができた。

２　研究開発単位Ⅱ：Advanced Science and Technology Academy (ASTA)

生徒の自治組織「ASTA」が自走を開始した。科学の甲子園（ジュニア含む）や、数学オリンピック、化学グランプリ等国際科学オリンピックへの出場を支援し、高い参加意欲を引き出した。生徒が主体となって活動を企画・運営する体制が整い、学内の「学究の文化」を牽引する組織へと成長している。毎年誰かが国内科学オリンピックで本選に出場するという状態が定常化しつつあり、今年度については化学オリンピックにおいて日本代表候補選考まで残った生徒を輩出できた（本校 2 人目である）。また、組織運営においては、今年度 ASTA の座長を初めて女子生徒が務めた点においても、性別によらず科学技術の学習を推進する学校文化が定着してきたといえる。

３　研究開発単位Ⅲ：Education for 2075 学校設定科目

技術分野と情報を統合した新科目「情報工学」を開講した。情報科学を軸としつつ、STEAM 教育における Technology および Engineering を融合させた授業を展開し、ものづくりの本質を学ぶ体制を構築した。また、学校設定科目「データサイエンス」では、理系のみならず文系の課題研究においてもデータ駆動型のアプローチが導入され、領域横断的な学びが具体化した。この成果については、今年度のスーパーサイエンスハイスクール情報交換会において、全体会にて報告している。

４　研究開発単位Ⅳ：Future Innovator Training (FIT)

第Ⅰ期指定より引き続き、FIT を通じて希望者を対象とした体験的・協同的な教育プログラムを開発・実施した。専門家・有識者による講演を主催するとともに、本年度は博士号を持つ教員の積極的活用の取組の一つとして、本校主催のプログラムに他校の生徒・教員を招聘し、専門的な学びの場を外部へ開放した。これにより、自校完結に留まらない成果の普及と、外部との交流を通じた生徒の主体性向上に成功した。

５　その他付随する事業

研究の質と安全性を担保するため、課題研究（KP）において、安全審査および倫理審査のプロセスを厳格化した。また、安全対策委員会との連携も含め、生徒自身がリスクマネジメントを意識した研究活動を遂行できるよう体制を整えることができた。また、校内に「産官学連携委員会」を新設し、大学の産官学連携本部等との協力体制を構築し、課題研究や FIT 等における外部連携時に専門的な助言が得られるシステムづくりを進めた。

事業評価に向けて、全学年の悉皆パネル調査を第Ⅰ期より継続している。資質・能力の自己評価のために用いるルーブリックを今回の新規指定に合わせて一部改定することができた。一方、統計解析の結果から、枠組み自体は多少の差異はあっても第Ⅰ期と概ね共通の枠組みで分析できることがわかっている。自己評価という性質上、学年進行とともに生徒の要求水準が上昇し、自己評価が低下する減少がしばしば生じるが、それを含めても 6 年間で確かに生徒の成長はみられている。また、本事業についての質的分析の一環として、今年度の卒業生のうち特徴的な生徒に面接調査を行い、「スクールライフヒストリー」を描き出した。この生徒は第Ⅰ期の指定開始とともに入学しており、本生徒の成長は主に第Ⅰ期の事業の成果であるが、KP を通して学校全体に浸透している「探究の文化」と、ASTA および、SSH 事業外の様々な特別活動等を通して学校全体に浸透している「自主の文化」が相乗して生徒の成長に繋がっているのではないかという示唆が得られた。

⑥　研究開発の課題　（根拠となるデータ等は「❸関係資料」に掲載。）

１　研究開発単位Ⅰ：Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト

安全審査や倫理審査のフローが確立された一方で、その審査管轄や最終的な意思決定プロセスの明確化が課題となっている。具体的には、自然科学系の研究については理科教員が担当し、生徒の実験安全を一元的に審査する体制を構築できた。また、人を対象とする研究については、自然科学であるか人文・社会科学であるかを問わず、RLwg の教員が担当する倫理審査のフローも整備されている。一方、身体運動科学や栄養科学等を中心とした分野の安全審査について、専門性が担保されたうえでの安全審査の体制を確立することが、文理は当然のこと分野の壁を超えた知の創造を目

指す本事業の推進のために求められている。
　また、担当教員によるゼミナール間の指導格差および評価格差がこれまでにも指摘されており、「学術探究」として教科化したことにより明示的に示されることになった。指導と評価の一体化の観点からは、当然指導していないことは評価できない、特に減点がしづらくなるが、それが評価の寛厳性という形で可視化されたことになる。また、生徒の研究の質における「二極化」学年ごとの到達度の差も指摘されており、学年全体を対象とした手法別講義の導入などで解決できるか、原因を精査したうえでボトムアップのための取組策を検討する必要がある。
　上述した「課題研究基礎」について、モデルカリキュラムの検討が始まったが、今後具体的な取り組みを題材として一層議論を進めていく必要がある。

２　研究開発単位Ⅱ：Advanced Science and Technology Academy (ASTA)

　生徒自治組織 ASTA の自走化が進んでいる中で、教員側による活動全体の把握とリスク管理のあり方を再検討しなければならない。生徒の自主性を尊重しつつも、学校教育としての質を担保する必要がある。危険を伴う実験等であれば安全審査の枠組みの中である程度解決することができるが、他の教科学習や生活習慣を蔑ろにして ASTA の活動に集中するようなケースにどう教員からのコントロールを入れていくかについては、まだ議論がまとまっていない。また、科学オリンピックをはじめとする外部コンテストへの参加人数をさらに増やし、学究の文化を一層定着させていくことも重要な課題である。

３　研究開発単位Ⅲ：Education for 2075 学校設定科目

　開講している各学校設定科目について、その教育的効果を測定するための評価指標（パフォーマンス評価等）について、量・質ともに引き続き様々な指標を検討していきたい。次年度はカリキュラムの内容をさらに専門的な discipline へと深化させ、学問的に高めていくことが求められる。

４　研究開発単位Ⅳ：Future Innovator Training (FIT)

　国際交流・国際共同研究の実施が課題である。既存の国内プログラムを基盤としつつ、海外の提携校を新たに開拓し、オンラインや対面を組み合わせた新プログラムの開発を進める必要がある。SSH 事業で求められる水準以前の課題として、2020 年以降中断した全世界的に中断した国際交流をどう進めていくかについて、働き方改革の動向も踏まえながら現在検討を進めている。国際的な共同研究は、合意形成や調整等に多大な時間を要することを踏まえ、早期の準備着手と中長期的な交流計画の策定が必要である。

５　その他付随する事業

　組織的な枠組みの構築には一定の成果が見られたが、新設した「産官学連携委員会」の実質的な運用と軌道化が挙げられる。これまでの企業等との連携は、一部の教員や生徒による属人的なつながり、あるいは個人と企業との関係に依存する側面があった。今後は、これらを学校組織と企業・研究機関、自治体等との連携へと広げていきたい。
　全校生徒対象に行った資質・能力の自己評価を分析した。自己評価という性質上客観性の追求には限界はあるが、逆に本校在籍中に育成された資質・能力を SSH 事業等の様々な教育活動へどのように主観的に帰属させているかの分析には適している。これについて、質的評価を試みている「スクールライフヒストリー」と照合させての分析が未だ不十分であるため、次年度以降試みたい。

１　令和５年度後期課程４年進級生用教育課程表

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度		令和６年度		**令和７年度**	
課程	前期課程			後期課程					
時期区分	基礎期		充実期			発展期			
学年	１年	２年	３年	４年		５年		６年	
教科				必履修	選択履修	必履修	選択履修	必履修	選択履修
国語 385	国語 140	国語 140	**国語 140** **１単位分移行** **（言語文化）**	現代の国語 2 言語文化 2		論理国語 2 古典探究 2	選択③ 文学国語 1	論理国語 2 古典探究 2	選択⑦ 文学国語 2
社会 350	社会 105	社会 140	**社会 140** **１単位分移行** **（公共）**	地理総合 2 歴史総合 2 *ESD 1*			選択④ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3		選択⑧ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3
数学 385	数学 140	数学 140	**数学 140** ***１単位分移行*** ***（基礎数学）***						
理科 385	理科 140	理科 140	**理科 175** ***２単位分移行*** ***（科学総合Ⅰ）***	*科学総合Ⅰ 4*			選択⑤ *科学総合Ⅱ 2*		選択⑦ *科学総合Ⅱ 2*
芸術 240	音楽 50 美術 50	音楽 35 美術 35	音楽 35 美術 35		選択① 音楽Ⅰ 2 美術Ⅰ 2				
保健体育 315	保健体育 105	保健体育 105	保健体育 105	体育 2 保健 1		体育 2 保健 1		体育 3	
技術・家庭 175 情報	技術・家庭 70	技術・家庭 105	**技術・家庭 70** ***１単位分移行*** ***（探究情報）*** **１単位分移行** **（家庭基礎）**	*探究情報 1*		家庭基礎 1			
外国語 420	英語 140	英語 140	英語 140	*探究英語Ⅰ 3* 論理・表現Ⅰ 2		*探究英語Ⅱ 4* 論理・表現Ⅱ 2		*探究英語Ⅲ 4* 論理・表現Ⅲ 2	
理数				*基礎数学 4* *DSⅠ 1*		理数数学Ⅱ 3 理数数学特論 2 *DSⅡ 1*	選択③ 理数数学Ⅱ 1 選択④ 理数化学 3 選択⑤ 理数物理 2 理数生物 2	理数数学Ⅱ 4 理数数学特論 2	選択⑦ 理数物理 4 理数生物 4 選択⑧ 理数化学 3
道徳	道徳 35	道徳 35	道徳 35						
総合	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅰ）	ＫＰ 70 （課題研究入門Ⅱ）	ＫＰ 70 （課題研究Ⅰ）	ＫＰ 2 （課題研究Ⅱ）		ＫＰ 2 （課題研究Ⅲ）		ＫＰ 1 （課題研究Ⅳ）	
その他					選択② *高大連携 1*		選択⑥ *高大連携* *1～8*		選択⑨ *高大連携* *1～8*
特別活動	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1	
合計	1085	1120	1120	30	2～3	23	9～17	21	10～18

☆　*斜体*は学校設定科目

斜体白抜き下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更

下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴わない教育課程の工夫

二重下線は，ＳＳＨの課題研究に係る箇所

☆　「KP」は本校における「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」の名称「Kobeﾎﾟｰﾄ･ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の略

☆　「*DS*」は「データサイエンス」の略称

☆　**太字**は，後期課程の内容の一部を前期課程に移行し履修する科目(教科書購入)。それ以外でも後期課程の内容の一部を移行。

☆ ４年時の選択

選択①　「音楽Ⅰ」又は「美術Ⅰ」を選択

選択②　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆ ５・６年時は，「人文・社会科学」又は「自然・生命科学」類型に所属

☆ ５年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として６年時も継続

選択③　人文・社会科学類型は「文学国語」を選択　　自然・生命科学類型は「理数数学Ⅱ」を選択

選択④　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑤　人文・社会科学類型は「*科学総合Ⅱ*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑥　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆ ６年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として５年時の選択を継続

選択⑦　人文・社会科学類型は「文学国語」及び「*科学総合Ⅱ*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑧　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑨　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

２　令和６年度後期課程４年進級生用教育課程表

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度		**令和７年度**		令和８年度	
課程	前期課程			後期課程					
時期区分	基礎期		充実期			発展期			
学年	１年	２年	３年	４年		５年		６年	
教科				必履修	選択履修	必履修	選択履修	必履修	選択履修
国語 385	国語 140	国語 140	**国語 140** **１単位分移行** **（言語文化）**	現代の国語 2 言語文化 2		論理国語 2 古典探究 2	選択③ 文学国語 1	論理国語 2 古典探究 2	選択⑦ 文学国語 2
社会 350	社会 105	社会 140	**社会 140** **１単位分移行** **（公共）**	地理総合 2 歴史総合 2 *ESD 1*			選択④ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3		選択⑧ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3
数学 385	数学 140	数学 140	**数学 140** ***１単位分移行*** ***（基礎数学）***						
理科 385	理科 140	理科 140	**理科 175** ***２単位分移行*** ***（科学総合Ⅰ）***	*科学総合Ⅰ 4*			選択⑤ *科学総合Ⅱ 2*		選択⑦ *科学総合Ⅱ 2*
芸術 240	音楽 50 美術 50	音楽 35 美術 35	音楽 35 美術 35		選択① 音楽Ⅰ 2 美術Ⅰ 2				
保健体育 315	保健体育 105	保健体育 105	保健体育 105	体育 2 保健 1		体育 2 保健 1		体育 3	
技術・家庭 175 情報	技術・家庭 70	技術・家庭 105	**技術・家庭 70** ***１単位分移行*** ***（探究情報）*** **１単位分移行** **（家庭基礎）**	*探究情報 1*		家庭基礎 1			
外国語 420	英語 140	英語 140	英語 140	*探究英語Ⅰ 3* 論理・表現Ⅰ 2		*探究英語Ⅱ 4* 論理・表現Ⅱ 2		*探究英語Ⅲ 4* 論理・表現Ⅲ 2	
理数				*基礎数学 4* *DSⅠ 1*		理数数学Ⅱ 3 理数数学特論 2 *DSⅡ 1*	選択③ 理数数学Ⅱ 1 選択④ 理数化学 3 選択⑤ 理数物理 2 理数生物 2	理数数学Ⅱ 4 理数数学特論 2	選択⑦ 理数物理 4 理数生物 4 選択⑧ 理数化学 3
道徳	道徳 35	道徳 35	道徳 35						
総合	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅰ）	ＫＰ 70 （課題研究入門Ⅱ）	ＫＰ 70 （課題研究Ⅰ）	ＫＰ 2 （課題研究Ⅱ）		ＫＰ 2 （課題研究Ⅲ）		ＫＰ 1 （課題研究Ⅳ）	
その他					選択② *高大連携* *1～8*		選択⑥ *高大連携* *1～8*		選択⑨ *高大連携* *1～8*
特別活動	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1	
合計	1085	1120	1120	30	2～10	23	9～17	21	10～18

☆　*斜体*は学校設定科目

斜体白抜き下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更

下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴わない教育課程の工夫

二重下線は，ＳＳＨの課題研究に係る箇所

☆　「KP」は本校における「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」の名称「Kobeﾎﾟｰﾄ･ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の略

☆　「*DS*」は「データサイエンス」の略称

☆　**太字**は，後期課程の内容の一部を前期課程に移行し履修する科目(教科書購入)。それ以外でも後期課程の内容の一部を移行。

☆　４年時の選択

選択①　「音楽Ⅰ」又は「美術Ⅰ」を選択

選択②　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　５・６年時は，「人文・社会科学」又は「自然・生命科学」類型に所属

☆　５年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として６年時も継続

選択③　人文・社会科学類型は「文学国語」を選択　　自然・生命科学類型は「理数数学Ⅱ」を選択

選択④　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑤　人文・社会科学類型は「*科学総合Ⅱ*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑥　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　６年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として５年時の選択を継続

選択⑦　人文・社会科学類型は「文学国語」及び「*科学総合Ⅱ*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑧　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑨　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

３　令和７年度後期課程４年進級生用教育課程表

年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度		令和８年度		令和９年度	
課程	前期課程			後期課程					
時期区分	基礎期		充実期			発展期			
学年	１年	２年	３年	４年		５年		６年	
教科				必履修	選択履修	必履修	選択履修	必履修	選択履修
国語 385	国語 140	国語 140	**国語 140** **１単位分移行** **（言語文化）**	現代の国語 2 言語文化 2		論理国語 2 古典探究 2	選択③ 文学国語 1	論理国語 2 古典探究 2	選択⑦ 文学国語 2
社会 350	社会 105	社会 140	**社会 140** **１単位分移行** **（公共）**	地理総合 2 歴史総合 2 *ESD 1*			選択④ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3		選択⑧ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3
数学 385	数学 140	数学 140	**数学 140** ***１単位分移行*** ***（基礎数学）***						
理科 385	理科 140	理科 140	**理科 175** ***２単位分移行*** ***（科学総合Ⅰ）***	*科学総合Ⅰ 4*			選択⑤ *科学総合Ⅱ 2*		選択⑦ *科学総合Ⅱ 2*
芸術 240	音楽 50 美術 50	音楽 35 美術 35	音楽 35 美術 35		選択① 音楽Ⅰ 2 美術Ⅰ 2				
保健体育 315	保健体育 105	保健体育 105	保健体育 105	体育 2 保健 1		体育 2 保健 1		体育 3	
技術・家庭 175 情報	技術・家庭 70	技術・家庭 105	**技術・家庭 70** ***１単位分移行*** ***（探究情報）*** **１単位分移行** **（家庭基礎）**	*探究情報 1*		家庭基礎 1			
外国語 420	英語 140	英語 140	英語 140	*探究英語Ⅰ 3* 論理・表現Ⅰ 2		*探究英語Ⅱ 4* 論理・表現Ⅱ 2		*探究英語Ⅲ 4* 論理・表現Ⅲ 2	
理数				*基礎数学 4* *DSⅠ 1*		理数数学Ⅱ 3 理数数学特論 2 *DSⅡ 1*	選択③ 理数数学Ⅱ 1 選択④ 理数化学 3 選択⑤ 理数物理 2 理数生物 2	理数数学Ⅱ 4 理数数学特論 2	選択⑦ 理数物理 4 理数生物 4 選択⑧ 理数化学 3
道徳	道徳 35	道徳 35	道徳 35						
総合	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅰ）	ＫＰ 70 （課題研究入門Ⅱ）	ＫＰ 70 （課題研究Ⅰ）	ＫＰ 2 （課題研究Ⅱ）		ＫＰ 2 （課題研究Ⅲ）		ＫＰ 1 （課題研究Ⅳ）	
その他					選択② *高大連携* *1～8*		選択⑥ *高大連携* *1～8*		選択⑨ *高大連携* *1～8*
特別活動	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1	
合計	1085	1120	1120	30	2～10	23	9～17	21	10～18

☆　*斜体*は学校設定科目

斜体白抜き下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更

下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴わない教育課程の工夫

二重下線は，ＳＳＨの課題研究に係る箇所

☆　「KP」は本校における「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」の名称「Kobeﾎﾟｰﾄ･ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の略

☆　「*DS*」は「データサイエンス」の略称

☆　**太字**は，後期課程の内容の一部を前期課程に移行し履修する科目(教科書購入)。それ以外でも後期課程の内容の一部を移行。

☆　４年時の選択

選択①　「音楽Ⅰ」又は「美術Ⅰ」を選択

選択②　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　５・６年時は，「人文・社会科学」又は「自然・生命科学」類型に所属

☆　５年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として６年時も継続

選択③　人文・社会科学類型は「文学国語」を選択　　自然・生命科学類型は「理数数学Ⅱ」を選択

選択④　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑤　人文・社会科学類型は「*科学総合Ⅱ*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑥　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　６年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として５年時の選択を継続

選択⑦　人文・社会科学類型は「文学国語」及び「*科学総合Ⅱ*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑧　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑨　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

４　令和８年度後期課程４年進級生用教育課程表

年度	令和５年度	令和６年度	**令和７年度**	令和８年度		令和９年度		令和10年度	
課程	前期課程			後期課程					
時期区分	基礎期		充実期			発展期			
学年	１年	２年	３年	４年		５年		６年	
教科				必履修	選択履修	必履修	選択履修	必履修	選択履修
国語 385	国語 140	国語 140	**国語 140** **１単位分移行** **（言語文化）**	現代の国語 2 言語文化 2		論理国語 2 古典探究 2	選択③ 文学国語 1	論理国語 2 古典探究 2	選択⑦ 文学国語 2
社会 350	社会 105	社会 140	**社会 140** **１単位分移行** **（公共）**	地理総合 2 歴史総合 2 公共 1			選択④ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3		選択⑧ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3
数学 385	数学 140	数学 140	**数学 140** **１単位分移行** **（数学Ⅰ）**	数学Ⅰ 2					
理科 385	理科 140	理科 140	**理科 175** **２単位分移行** **（化学基礎）** **（生物基礎）**	物理基礎 2 化学基礎 1 生物基礎 1			選択⑤ *科学総合 2*		選択⑦ *科学総合 2*
芸術 240	音楽 50 美術 50	音楽 35 美術 35	音楽 35 美術 35		選択① 音楽Ⅰ 2 美術Ⅰ 2				
保健体育 315	保健体育 105	保健体育 105	保健体育 105	体育 2 保健 1		体育 2 保健 1		体育 3	
技術・家庭 175 情報	技術・家庭 70	技術・家庭 105	**技術・家庭 70** **１単位分移行** **（情報Ⅰ）** **１単位分移行** **（家庭基礎）**	情報Ⅰ 1		家庭基礎 1			
外国語 420	英語 140	英語 140	英語 140	英語ＣⅠ 3 論理・表現Ⅰ 2		英語ＣⅡ 4 論理・表現Ⅱ 2		英語ＣⅢ 4 論理・表現Ⅲ 2	
理数				*基礎数学 2*		理数数学Ⅱ 3 理数数学特論 2 *DS 1*	選択③ 理数数学Ⅱ 1 選択④ 理数化学 3 選択⑤ 理数物理 2 理数生物 2	理数数学Ⅱ 4 理数数学特論 2	選択⑦ 理数物理 4 理数生物 4 選択⑧ 理数化学 3
道徳	道徳 35	道徳 35	道徳 35						
総合	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅰ）	ＫＰ 70 （課題研究入門Ⅱ）	ＫＰ 75 （課題研究Ⅰ）	ＫＰ 2 （課題研究Ⅱ）		ＫＰ 2 （課題研究Ⅲ）		ＫＰ 1 （課題研究Ⅳ）	
その他					選択② *高大連携* *1～8*		選択⑥ *高大連携* *1～8*		選択⑨ *高大連携* *1～8*
特別活動	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1	
合計	1085	1120	1125	30	2～10	23	9～17	21	10～18

☆　*斜体*は学校設定科目

斜体白抜き下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更

下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴わない教育課程の工夫

二重下線は，ＳＳＨの課題研究に係る箇所

☆　「KP」は本校における「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」の名称「Kobeﾎﾟｰﾄ･ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の略

☆　「英語Ｃ」は「英語コミュニケーション」を示す　　「*DS*」は「データサイエンス」の略称

☆　**太字**は，後期課程の内容の一部を前期課程に移行し履修する科目(教科書購入)。それ以外でも後期課程の内容の一部を移行。

☆　４年時の選択

選択①　「音楽Ⅰ」又は「美術Ⅰ」を選択

選択②　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　５・６年時は，「人文・社会科学」又は「自然・生命科学」類型に所属

☆　５年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として６年時も継続

選択③　人文・社会科学類型は「文学国語」を選択　　自然・生命科学類型は「理数数学Ⅱ」を選択

選択④　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑤　人文・社会科学類型は「*科学総合*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑥　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　６年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として５年時の選択を継続

選択⑦　人文・社会科学類型は「文学国語」及び「*科学総合*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑧　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑨　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

５　令和９年度後期課程４年進級生用教育課程表

年度	令和６年度	**令和７年度**	令和８年度	令和９年度		令和10年度		令和11年度	
課程	前期課程			後期課程					
時期区分	基礎期		充実期			発展期			
学年	１年	２年	３年	４年		５年		６年	
教科				必履修	選択履修	必履修	選択履修	必履修	選択履修
国語 385	国語 140	国語 140	**国語 140** **１単位分移行** **（言語文化）**	現代の国語 2 言語文化 2		論理国語 2 古典探究 2	選択③ 文学国語 1	論理国語 2 古典探究 2	選択⑦ 文学国語 2
社会 350	社会 105	社会 140	**社会 140** **１単位分移行** **（公共）**	地理総合 2 歴史総合 2 公共 1			選択④ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3		選択⑧ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3
数学 385	数学 140	数学 140	**数学 140** **１単位分移行** **（数学Ⅰ）**	数学Ⅰ 2					
理科 385	理科 140	理科 140	**理科 175** **２単位分移行** **（化学基礎）** **（生物基礎）**	物理基礎 2 化学基礎 1 生物基礎 1			選択⑤ *科学総合 2*		選択⑦ *科学総合 2*
芸術 240	音楽 50 美術 50	音楽 35 美術 35	音楽 35 美術 35		選択① 音楽Ⅰ 2 美術Ⅰ 2				
保健体育 315	保健体育 105	保健体育 105	保健体育 105	体育 2 保健 1		体育 2 保健 1		体育 3	
技術・家庭 175 情報	技術・家庭 70	技術・家庭 105	**技術・家庭 70** **１単位分移行** **（情報Ⅰ）** **１単位分移行** **（家庭基礎）**	情報Ⅰ 1		家庭基礎 1			
外国語 420	英語 140	英語 140	英語 140	英語ＣⅠ 3 論理・表現Ⅰ 2		英語ＣⅡ 4 論理・表現Ⅱ 2		英語ＣⅢ 4 論理・表現Ⅲ 2	
理数				*基幹数学 2*		理数数学Ⅱ 3 理数数学特論 2 *DS 1*	選択③ 理数数学Ⅱ 1 選択④ 理数化学 3 選択⑤ 理数物理 2 理数生物 2	理数数学Ⅱ 4 理数数学特論 2	選択⑦ 理数物理 4 理数生物 4 選択⑧ 理数化学 3
道徳	道徳 35	道徳 35	道徳 35						
総合	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅰ）	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅱ）	ＫＰ 75 （課題研究Ⅰ）	ＫＰ 2 （課題研究Ⅱ）		ＫＰ 2 （課題研究Ⅲ）		ＫＰ 1 （課題研究Ⅳ）	
その他					選択② *高大連携* *1～8*		選択⑥ *高大連携* *1～8*		選択⑨ *高大連携* *1～8*
特別活動	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1	
合計	1085	1125	1125	30	2～10	23	9～17	21	10～18

☆　*斜体*は学校設定科目

斜体白抜き下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更

下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴わない教育課程の工夫

二重下線は，ＳＳＨの課題研究に係る箇所

☆　「KP」は本校における「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」の名称「Kobeﾎﾟｰﾄ･ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の略

☆　「英語Ｃ」は「英語コミュニケーション」を示す　　「*DS*」は「データサイエンス」の略称

☆　**太字**は，後期課程の内容の一部を前期課程に移行し履修する科目(教科書購入)。それ以外でも後期課程の内容の一部を移行。

☆　４年時の選択

選択①　「音楽Ⅰ」又は「美術Ⅰ」を選択

選択②　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　５・６年時は，「人文・社会科学」又は「自然・生命科学」類型に所属

☆　５年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として６年時も継続

選択③　人文・社会科学類型は「文学国語」を選択　　自然・生命科学類型は「理数数学Ⅱ」を選択

選択④　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑤　人文・社会科学類型は「*科学総合*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑥　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　６年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として５年時の選択を継続

選択⑦　人文・社会科学類型は「文学国語」及び「*科学総合*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑧　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑨　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

６　令和10年度後期課程４年進級生用教育課程表

年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度		令和11年度		令和12年度	
課程	前期課程			後期課程					
時期区分	基礎期		充実期			発展期			
学年	１年	２年	３年	４年		５年		６年	
教科				必履修	選択履修	必履修	選択履修	必履修	選択履修
国語 385	国語 140	国語 140	**国語 140** **１単位分移行** **（言語文化）**	現代の国語 2 言語文化 2		論理国語 2 古典探究 2	選択③ 文学国語 1	論理国語 2 古典探究 2	選択⑦ 文学国語 2
社会 350	社会 105	社会 140	**社会 140** **１単位分移行** **（公共）**	地理総合 2 歴史総合 2 公共 1			選択④ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3		選択⑧ 地理探究 3 日本史探究 3 世界史探究 3
数学 385	数学 140	数学 140	**数学 140** **１単位分移行** **（数学Ⅰ）**	数学Ⅰ 2					
理科 385	理科 140	理科 140	**理科 175** **２単位分移行** **（化学基礎）** **（生物基礎）**	物理基礎 2 化学基礎 1 生物基礎 1			選択⑤ *科学総合 2*		選択⑦ *科学総合 2*
芸術 240	音楽 50 美術 50	音楽 35 美術 35	音楽 35 美術 35		選択① 音楽Ⅰ 2 美術Ⅰ 2				
保健体育 315	保健体育 105	保健体育 105	保健体育 105	体育 2 保健 1		体育 2 保健 1		体育 3	
技術・家庭 175 情報	技術・家庭 70	技術・家庭 105	**技術・家庭 70** **１単位分移行** **（情報Ⅰ）** **１単位分移行** **（家庭基礎）**	情報Ⅰ 1		家庭基礎 1			
外国語 420	英語 140	英語 140	英語 140	英語ＣⅠ 3 論理・表現Ⅰ 2		英語ＣⅡ 4 論理・表現Ⅱ 2		英語ＣⅢ 4 論理・表現Ⅲ 2	
理数				*基幹数学 2*		理数数学Ⅱ 3 理数数学特論 2 *DS 1*	選択③ 理数数学Ⅱ 1 選択④ 理数化学 3 選択⑤ 理数物理 2 理数生物 2	理数数学Ⅱ 4 理数数学特論 2	選択⑦ 理数物理 4 理数生物 4 選択⑧ 理数化学 3
道徳	道徳 35	道徳 35	道徳 35						
総合	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅰ）	ＫＰ 75 （課題研究入門Ⅱ）	ＫＰ 75 （課題研究Ⅰ）	ＫＰ 2 （課題研究Ⅱ）		ＫＰ 2 （課題研究Ⅲ）		ＫＰ 1 （課題研究Ⅳ）	
その他					選択② *高大連携* *1～8*		選択⑥ *高大連携* *1～8*		選択⑨ *高大連携* *1～8*
特別活動	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 35	ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1		ＬＨＲ 1	
合計	1085	1125	1125	30	2～10	23	9～17	21	10～18

☆　*斜体*は学校設定科目

斜体白抜き下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴う教育課程の変更

下線は，ＳＳＨの研究開発に係る教育課程の特例を伴わない教育課程の工夫

二重下線は，ＳＳＨの課題研究に係る箇所

☆　「KP」は本校における「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」の名称「Kobeﾎﾟｰﾄ･ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」の略

☆　「英語Ｃ」は「英語コミュニケーション」を示す　　「*DS*」は「データサイエンス」の略称

☆　**太字**は，後期課程の内容の一部を前期課程に移行し履修する科目(教科書購入)。それ以外でも後期課程の内容の一部を移行。

☆　４年時の選択

選択①　「音楽Ⅰ」又は「美術Ⅰ」を選択

選択②　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　５・６年時は，「人文・社会科学」又は「自然・生命科学」類型に所属

☆　５年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として６年時も継続

選択③　人文・社会科学類型は「文学国語」を選択　　自然・生命科学類型は「理数数学Ⅱ」を選択

選択④　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑤　人文・社会科学類型は「*科学総合*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑥　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

☆　６年時の選択　　所属する類型並びに地歴及び理科又は理数に関する選択は，原則として５年時の選択を継続

選択⑦　人文・社会科学類型は「文学国語」及び「*科学総合*」を選択　　自然・生命科学類型は「理数物理」又は「理数生物」を選択

選択⑧　人文・社会科学類型は地歴２科目を選択　　自然・生命科学類型は地歴１科目と「理数化学」を選択

選択⑨　希望者のみ選択。「*高大連携*」は大学が開講する科目を履修することを含む

７　令和７年度　第１回運営指導委員会　議事録

日　時　令和７年７月 18 日（木）　13:45 ～ 15:30
場　所　神戸大学経営学研究科　中会議室
参加者

運営指導委員【敬称略：五十音順】

伊藤 真之（みらい開拓人材育成センター コーディネーター）
齋木 俊城（TS まなびラボ 代表）
髙島 崚輔（芦屋市 市長）
田中 瑛津子（名古屋大学博士課程教育推進機構 特任助教）
西川 雅秀（兵庫県立大学教職教育センター 特任教授）
山田 剛史（横浜市立大学大学院都市社会文化研究科 教授）

指定校（本校）・管理機関（附属学校部）

髙木 勝久（校長）	吉田 智也（副校長）	中垣 篤志（主幹教諭）	高木 優（指導教諭）
輕尾 弥々（教諭）	竹村 実成（教諭）	髙嶋 純矢（教諭）	林 兵馬（教諭）
樋口真之輔（教諭）	若杉 誠（教諭）		
渡邊 隆信（附属学校部長）	井上 真理（大学連携コーディネーター）	三輪 泰大（みらい開拓人材育成センター）	
前川 浩一（事務長）	蔭木 秀行（主任）	横谷 明子（研究協力員）	

議　事

１　開会挨拶、参加者自己紹介
２　卒業研究優秀者発表会についての意見感想等
３　令和７年度第Ⅱ期指定 研究開発計画について
４　指導助言（抜粋）

・論文の評価にはルーブリックを作られているとのこと。ルーブリックの各評価の観点について、例えば５段階でレベルを設定したものを点数化して、評価にうまく活用できるのではないか。
・この会の名称は、「優秀者発表会」ではなく「代表者発表会」の方がよいのではないか。１つの軸があり、点数化されて上から９人であるならまだしも、色々な観点から選ばれた生徒であるので、代表者という語のほうが適しているのではないか。
・学校設定科目「学術探究」となり、文系・理系関係なく評価していかなければならない。その時、共通の指標、ルーブリックが本当にできて、それでみんな同じように評価ができるのか。
・いろんな分野の研究がある点が良い。化学や数学など、自然科学だけで解決できる問題はあまり多くない。様々な分野を分かってこそということがある。他方で、一つの強み・自分の芯を持つことは大事にしてほしい。
・行政機関や公立の学校との連携については、どのように考えているのか。中学校にも部活の地域展開が求められており、それらと協力できる可能性があるのではないか。
・中学１、２年生で何をするかについては、個人の研究テーマよりも、方法を知ることが大切。その時に卒業生を活用できるのではないか。
・研究ばかり目が向くと、時にテクニックに走ってしまう。だからこそ、ASTA は生徒同士がつながれる「場」になるかもしれない。ASTA の活動をさらに開放して宣伝して、みんなで参加できるように、あるいは地域に参加してもらうなどの展開があると面白い。
・生徒も教員も楽しんで研究をする姿勢を、引き続き大切にしてほしい。このことが、発表会全体の雰囲気の良さから伝わってくる。
・ASTA は生徒の自治、つまり生徒がやりたいからやるという文化の顕れである。ASTA に限らず、学校のこれまでの様々な取り組みの中で、脈々と受け継がれてきた良い文化を大切にしてほしい。

５　閉会挨拶

８　令和７年度　第２回運営指導委員会　議事録

日　時　令和８年２月７日（土）17:15 ～ 18:30
場　所　神戸大学附属中等教育学校 ＫＰルーム
参加者

運営指導委員【敬称略：五十音順】

伊藤 真之（みらい開拓人材育成センター コーディネーター）
齋木 俊城（TS まなびラボ 代表）
髙島 崚輔（芦屋市 市長）（オンライン）
田中 瑛津子（名古屋大学博士課程教育推進機構 特任助教）（ご欠席）
西川 雅秀（兵庫県立大学教職教育センター 特任教授）
山田 剛史（横浜市立大学大学院都市社会文化研究科 教授）

指定校（本校）・管理機関（附属学校部）

髙木 勝久（校長）	吉田 智也（副校長）	中垣 篤志（主幹教諭）	輕尾 弥々（教諭）
竹村 実成（教諭）	樋口真之輔（教諭）	若杉 誠（教諭）	
渡邊 隆信（附属学校部長）	井上 真理（大学連携コーディネーター）	三輪 泰大（みらい開拓人材育成センター）	
前川 浩一（事務長）	蔭木 秀行（主任）	横谷 明子（総務係員）	

議　事

1　開会挨拶、参加者自己紹介
2　授業研究会全体会・分科会についての感想等
3　令和７年度の事業報告および次年度の計画
4　課題および今後の方向性
5　指導助言（抜粋）

・生徒が主体的に学術的なものに向かっていく「学校文化」を、最大のリソースとして尊重しつつ、これからも進めていってほしい。
・SSH の今後の方向性については、この学校でなぜ高度な探究ができるのかを理論化・一般化し、外部にアピールできる説明モデルを構築していく必要がある。
・地元自治体との包括連携協定などを活用し、生徒が開発したインソールを介護施設で試用するなど、実社会での実証実験の場を広げていける可能性があるのではないか。
・国際交流においては、学校の理念を深く理解し、共に生徒を育てようとしてくれる現地の「理解者」との関係性を優先してほしい。
・特定の教員に負担が集中する「属人化」を避けるため、人事異動や体制変更があっても教育の質を維持できる仕組みづくりを真剣に考えるべきである。
・教員自身が義務感ではなく、楽しみながら自由に研究や指導に取り組む姿勢こそが、生徒の意欲や成果を引き出す源泉となっているので、この姿勢を大切にしてほしい。
・理系科目だけでなく文系科目の発想を取り入れた研究を継続することは、将来の社会課題を解決する上で非常に重要である。
・附属学校で蓄積された取り組みは、多くの高校にとっては当たり前ではない。以前の出版物の続編として書籍化し、継続的にアウトプットすることができるはずである。他校の教員を助ける実績として積み上げていくとよいのではないか。
・KP（探究活動）で身につくメタ認知や自己調整能力が、大学や社会に出てからどう役立つのかを教員が具体的に言語化して伝え、生徒のモチベーションを高めてほしい。
・学校の方針として生徒や教員の心に刺さるような「高い志」や「独自の価値」を掲げ、組織として一体感を持って進んでほしい。

6　閉会挨拶

９　課題研究において、生徒が取り組んだ研究テーマ一覧（令和７年度３年生）

中原中也の詩における字下げの視覚的効果について	中高生の食の趣向とその原因	糖の種類の違いが、酵母の発酵活動にどのような影響を与えるのか _糖の構造と浸透圧に注目して__
「赤毛のアン」における怒りの翻訳変遷と権利の変容 −村岡花子から松本侑子へ40年をたどって−	安心感を届ける声とは―声が人の心に与える影響と“心地よさ”の条件―	善玉菌が健康に及ぼす影響とその生存性―仕組みと酸耐性の調べ方―
多腕のデザイン的リアリティ−腕の増えた人間の人体構造とは−	「モフモフ」にはリラックス効果があるのか	座位時の姿勢と直後の運動能力の関係
日本の伝統的な音階が聴く人に与える印象・感情について	ペナルティキックでゴールキーパーがゴールに立つことによる競技特性不安尺度への影響	3Dプリンタで作成した ギプスにおける実用性について ―市販の製品と比較して―
周囲の音の環境が集中力に及ぼす 影響について	デジタルデバイス上におけるコラージュ療法の実施方法の開発	中高生におけるボディイメージに影響を及ぼす背景因子―アンケート調査質問項目の検討―
ボーカロイド楽曲にみる音楽的・表現的変遷の分析	仕掛学による靴をそろえる行動推進の研究__足跡を用いて視覚的に刺激できるのか__	学生スポーツにおける体のケアと怪我の実態 ―中高生のケア意識から考えるスポーツトレーナーの必要性―
ギターのセーハを上手に弾けるようになるには ―初心者特有の苦手な点に着目して―	感動できる小説の特徴について	CPT2欠損症について
競技ドリフトにおける「魅せる走り」とはどのような要素によって成り立つのか―D1GPをもとに考える―	チョコレート菓子における味別の 商品パッケージの提案についての研究 ―商品パッケージが消費者に与える影響についての研究より―	暗いところで見える色彩を伴った模様について
仮面ライダーと現実社会の関連性とは	各性格特性に適した動機づけ始発方略の提案	自宅で実施可能なドライアイ治療法の検討 ―ドライアイの音楽療法に着目して―
ロシアにおける「赤」の変遷について	「正解のない時代」における信念の在り方について	実用的な空間的気温予測にはどれだけのデータ数を確保する必要があるのか −緯度と気温に着目した、単純な観測システム実験を通して−
神戸の写真入絵葉書と神戸のアイデンティティについて―先行研究の調査手法に着目して―	学生における居場所感　心理的安全性の観点から居場所感へ	サッカーの最も適した芝生とは
近代・現代の日本において沖縄と北海道の 地名の命名由来に共通点は見られるか ―かつて日本でなかった地域の地名比較を通して―	マスクの色と人の印象の関係	バスケットボールにおける流れとタイムアウトの関係性―ボールの保持時間に着目して―
コンテンツツーリズムにおける新たな問題性－艦隊これくしょんから考えるコンテンツツーリズムの不安定さ－	形容詞の持つ色の印象とその由来	運動能力の高さと扁平足に関係性はあるのか ―自己評価した運動能力の高さに着目して―
一票の格差は憲法に違反していると言えるのか ―一票の格差に関する2つの裁判に着目して―	音声認識AIは日本語男声合唱曲を 正しく認識できるか？ ―Whisperの合唱曲への音声認識の精度と諸課題―	ゲームプレイ時におけるキーボードの最適な角度について
ラベルレスペットボトルの 売り上げをあげるためには―本校生徒がラベルレスペットボトルに感じる問題点の改革―	生成AIの出力をコントロールするプロンプト設計の考案 ―深層学習の方法に着目して―	陸上競技の練習における午前と午後の 反応速度の違いとはなにか ―中距離の練習が及ぼす体の 認知パフォーマンスについて―
神戸市バスの運営効率化について　―営業係数の観点から―	設定ファイル中心の状態管理を用いた 自己開発アドオン管理システムの ユーザ体験分析―Garry’s Mod の Steam Workshop アドオン管理を対象として―	ノーツ降下型音楽ゲームの短時間プレイが及ぼす反応時間に対する影響とは
学校広報における著名キャラクターを使用したグッズの有効性について ―サンリオキャラクターを使用した例に着目して―	鉛筆の形状と作業効率の関係性について ―丸・三角形・六角形に着目して―	阪神・村上頌樹投手における球種割合と得点圏の配球および球速変化の分析
統計理論の飲食店検索アプリへの活用　―ベイジアンネットワーク・決定木に着目して―	水泳のクロール泳の泳ぎについて(腕に注目して)	ロジャー・フェデラーの「統計的特異性」に関する考察 ――期待勝率との乖離および勝利への変換効率の分析――
クライマックスシリーズの制度改正の提案 ―リーグ優勝チームの敗退リスクに注目して―	船のスクリューについて __効率的なスクリューの形を調べる__	ラグビーとサッカーにおけるキックの場合の体の使い方の違い
国立大学における 女子枠入試導入の背景とその妥当性 ―大学の理念から見る 女子枠の導入理由―	シャープペンシルの芯に加わる力の向きと折れやすさの関係 ― ペン軸に垂直な力を一定とした角度依存性の検討 ―	失策とその後のバッティングへの影響について　-8選手に着目して-
留学におけるL2コミュニケーション志向の変容とその形態	より疲れにくいシャーペンはどのようなものか_シャーペンの構成に必要なこととは_	陸上競技の中距離種目におけるウォーミングアップの量とパフォーマンスの関係性とは
教科に対する色のイメージはどのような要因によって形成されるのか	ほこりと水分の相互作用が摩擦力にあたえる影響とは	バスケットボールにおける 3Pシュート成功率の変動に関する研究 ―連続試投本数が成功率に与える影響―
小集団活動と人間関係の構築の関係性	ピアノのハンマーの動きと音に関係はあるのか ―ハンマーの速度に着目して―	最も運動パフォーマンスが上がる時間帯―朝昼晩三度の食事に着目して―
新しい働き方の形　―V体のよりよい社会での活用方法について―	飛距離の長い弓矢の提案―「弓力」に着目して―	剣道における踏み込み足の初心者への指導について
女性像の分析―近代女性雑誌と女性ファッション誌の比較を通して―	中空ソレノイドを用いた磁束量の測定	高校の部活でもアナリストのような分析ができるのか
街頭広告と消費者行動の関係性	過酸化水素水とポビドンヨードでは、どちらの方が消毒効果に優れているのか？__タンパク質に注目して__	バレーボールにおけるジャンプ時の最適なコンディション
メイクに興味関心を持ち始める年齢の低年齢化の実態と考察―SNSと海外文化が及ぼす影響―	シマトネリコの葉によって行われる光合成の継続機能―枝から切り離した葉に含まれるデンプンに着目して―	月別気象データに基づく 花粉飛散量の相関分析 ―月単位データの限界と日別解析の必要性―
タンザニアの現状医療と概略の改善案 __医療政策において顕著な成果を上げている隣国 ルワンダと比較して__	神戸大学附属中等教育学校内のネザサの分布について	近年の若者層における骨折者数増加の背景的要因―生活習慣が骨の健康および骨折発生に与える影響について―
現代日本における芸術土壌-芸術家支援を着眼点として-	服に付いたひっつき虫の最も効率的な取り方とは	ヨーグルトの蓋の撥水機能に着目したパッケージ技術の検討　―食品ロス削減に向けた汎用性と限界
プロ野球12球団のマスコットにおける知名度とその差の要因分析 ―各球団メインマスコットに着目して―	犬および猫における被毛の性質	ひねり包装における飴の適切な包み方
スマートフォンの電池残量が中高生の心理・行動に与える影響 ―スマホ依存との関連に着目して―	鳥の動きと地震の関係__地震直前に鳥が示す異常行動行動__	ラッコの毛の構造を用いた衣類の提案 ― バイオミミクリーによる保温機構の衣類応用 ―
関西弁から受ける印象　―連続テレビ小説で使用される方言特徴に着目して―	アブラムシを直接潰さずに 簡単に防除する方法	牛乳パックの注ぎ口が破れないような開け方とは？
外来語の和訳におけるカタカナ表記について ―「ウィ／ウイ」「ウェ／ウエ」「ウォ／ウオ」を中心に考察する―	バナナが最も甘いタイミングとは?−シュガースポットに着目して−	災害発生時における精神科医が被災者に与える最大の影響―「心の復興」とは孤独を無くすこと：小説から考察する精神科医の真の役割とウェルビーイング―
絵本の読み聞かせの回数の違いは、子どもの語彙獲得の発達に差を生じさせるのか	「孤独なクジラ」はなぜ孤独なのか__周波数の違いが仲間認識に与える影響に着目して__	栄養のある食事を被災者に提供するには
背景色が購買意欲に与える影響	昆虫には記憶力があるのか ―アリの行動パターンに着目して―	災害時避難所におけるアロマテラピーの心理的効果―非薬的介入によるメンタルヘルス支援の可能性―
中高生における同調圧力の認識と関連する要因とは	ハゼの口形と生活層に関する研究 ―ヨシノボリとウキゴリにおける口形が違う理由に着目して―	災害リハビリテーションの最適な活用方法の提案　理学療法を用いて
バスケットボール競技における観客数が選手の心理的動態に及ぼす影響 ―試合までの日数経過に伴う感情変化とパフォーマンス・勝敗との関連性―	レモングラスの新しい栽培方法の開発 ―植物を育てるpHに着目して―	天気アプリは必要な情報を迅速に伝達できているのか　―警報と避難情報の表示に着目して―
第一印象と匂いの関係性	鳥の飛行メカニズムの研究	

10　課題研究において、生徒が取り組んだ研究テーマ一覧（令和７年度４年生）

兵庫県の山城における祭祀の実態とその社会的背景について	NPBにおける球団拡張についての提案	日本の推し活文化がCD消費に与える影響 ―世界的音楽消費の変化と日本の特殊性 ―
原価を抑えたビジネスモデルにおける4Pマーケティング戦略の有効性 ―リアビズ高校生模擬企業グランプリにおけるフラワラフの実証販売を通して―	家庭科における学習活動が 生徒の食品ロスに対する意識に及ぼす影響	今と昔の指輪と結婚指輪文化の立ちいちの変化 ―学生の指輪文化に着目して―
地震の予測の限界―発生場所・時期・前兆現象の分析―	都市開発における効率性と滞留性の両立に関する研究 ―シンガポールの都市開発事例から考察する課題の分析―	下腿筋痙攣の生理学的要因と予防戦略
中高生短距離選手における心拍回復と主観的疲労感の関係 ―スプリント後の回復過程に着目して―	陸上競技における腰に優しい指導方法とは ―腰落ちフォームと分離症の関係性から考える―	足関節捻挫の再発を予防するにはどのような方法が有効なのか？
荷物は本当にお荷物なのか	印象に残る映画とは―映画音楽に注目して―	おいしさをわかりやすく伝えるには ―味の表現技法をもとにレビューを分析―
落語のマクラにおける笑いの表現と法則性とは	物質の変化による表面張力に与える影響	消費者の求めるオレンジジュースとは― 濃縮還元ジュースと搾り果汁を比較して―
墨汁のにじまない条件とは	酢水スプレーの水の種類の違いがうどんこ病菌の抑制に与える影響とは	肥満は誰の責任なのか ―アメリカ社会における構造的要因と医療介入の限界―
近年のMLBにおける複数のルール改正は、投手成績 の「安定性」にどのような影響を与えたのか ―― ピッチクロック導入と守備シフト制限を中心とし た統計的分析 ――	福島の現状と課題とは ―原発事故からの復興について―	味噌汁の一番美味しい塩分濃度 _旨味の出す味を最大限に引き出す_
食べ放題システムにおける食品ロス課題と実態 ―世代における意識に着目して―	紅茶ポリフェノールは鳥インフルエンザ予防にも有効か	スポーツ現場におけるグミ導入可能性 ―胃液環境を再現した溶液中での崩壊速度の測定を通じて―
SNS上のコスメ動画に関する考察と提案	フォントの機能性に関する研究―フォントの構成要素に着目して―	サルコペニア患者への 日常的に行える食事治療の提案
テニスにおける試合中のルーティン行動と心理的状態	テニスの試合における勝率予測モデルの構築とリアルタイムアプリ開発 ―個人で統計モデルを作り、リアルタイム予測アプリで体験する試合予想 ―	サッカーにおけるボール奪取位置とゴール確率の関係
無電柱化を推進するためには―無電柱化の現状とマイクロ波技術による電力供給―	福島県浜通り地域における「持続可能な交通体系」とは ―駅勢圏人口に着目して―	戦国時代の日本において、聖歌を広めるために必要だった条件とは
ラウンドアバウトはどのような状況下で強い効果を発揮するのか ―信号交差点とのシミュレーション比較―	西宮市における自転車利用の課題とは―交差点での右折に注目して―	麦による主食コストダウンの可能性
小中学生の集中力を維持しやすい資料館の映像構成とは―トップYouTuberの編集技術の観点から―	紙鉄砲を大きく鳴らすためには	Pythonを用いた輸送環境下の寄り弁を防ぐ具材シミュレーション ―外部振動によって生じる弁当容器内の内容物移動を防止する機構の物理的検討―
ヨーグルトの蓋における撥水加工 -蓋の活用性とその原因に着目して-	がん患者にとってウィッグを付けやすい環境を作るためには？ ―『かつら』と『ウィッグ』の言葉のイメージに注目して―	発展途上国における生理の貧困への支援のあり方 ―支援が広がらないのはなぜか、タンザニア・ネパールにおけるアンケート調査より考察―
コンタクトレンズが目に与える影響 ―イオンの変化に着目して―	乳幼児に対するアレルゲン免疫療法の検討	部活動における教師の持続可能な働き方とは
界面活性剤の生分解性の比較実験の検討―界面活性剤の生分解と環境影響に着目して―	生活リズムの夜型化と朝練にともなう起床時刻の変動に関する研究 ―朝練の有無による就寝・起床時刻の差異と睡眠不足の要因検討―	日本の化粧品企業における動物実験への対応の促進 ―日本と世界の現状を踏まえて―
現代テニスにおいて サーブアンドボレーは有効なのか ―サーブアンドボレーの使用頻度と成功率は、時代に よってどのように変化しているのか―	パスや電車での座席選択について	ボードゲームを通じて競技人口を増加させることは可能か ―野球をテーマにして―
太陽黒点相対数と磁気嵐発生数の相関および地磁気活動の遅行性に関する研究	スマートフォン搭載カメラを使用した 安価な分光天体観測手法の検討	折り紙飛行機の滞空時間を延ばすには どうすればいいのか ―スカイキングを用いて―
宇宙エレベーターのケーブル条件を満たすには ―宇宙エレベーターのケーブル条件に適する素材と身の回りの繊維での代替素材の引張実験―	硬いクッキーを作るための材料条件の検討―タンパク質、油脂に注目して―	裁判員の辞退を防ぐには―中学校・高等学校の法教育における裁判傍聴の提案―
家の区切りを減らして部屋を広くするには ―耐震性に着目して―	性格特性がプラシーボ効果に与える影響―楽観性に着目して―	ビデオゲームは脳と認知機能にどのような影響を与えるのか
日本の裁判実務における刑事責任能力の判断構造について―精神疾患を有する加害者の判例分析を中心に―	木造古民家を用いた防災居住空間の提案―持続可能な防災と文化継承―	帰宅困難区域または災害再生復興拠点区域における人口を増加させるための街づくり
アメリカにおける世代間の幸福度の差と その要因 ―若者とベビーブーマーに着目して―	平成の新語・流行語における、音象徴上の特徴について ―両唇音と濁音に関する分析―	広告に見る時代と社会の変化－化粧品広告の表現に着目して－
繰り返しによる笑いのメカニズム ―お笑いのかぶせ、天井に着目して―	六甲山系における植生の斜面安定化機能の評価―クスノキ群落の樹種特性とICTを用いた測量に着目して―	波の力を最も効率良く弱める消波ブロックとは―形状と配置に着目して―
写真撮影型位置特定アプリケーションの開発 ―幾何学的測量法を応用して―	ふるさと納税変遷と「地方創生」の実効性について	雷鳴の周波数スペクトル・スペクトログラム解析による距離推定と音響特性の研究―落雷の危険性がある雷の特徴の評価―
テープの粘着力を測る指標となるものとは_テープがはがれる際に発する音に着目して_	ポケモンのヤドンにおける シェルダーとの共生関係と 適した貝殻について ―相利共生・Raup モデルに着目して―	植物が緑色になる条件―かいわれ大根を対象として―
イエネコが不快に感じにくい音圧レベルの推定	サツマイモの切断方法の違いによるヤラピン抽出量の比較	市場価値の高いしいたけの効率の良い栽培方法 ―軸の太さとLED光照射の色に着目して―
絶対音感保持者における音高知覚と 演奏動作表象の関連について−音階ストループ課題を用いて−	都市公園における帰化植物と在来種の分布 の違いとその要因は何か ―植生調査を通して―	気象改変は行うべきか
電場・磁場中の荷電粒子の運動 ―理論から考えて―	パラスト水管理に向けた喫水制御システムの提案	時間経過したペットボトル内の液体は安全か
食べ物と地面との接触時間における菌の増殖量について ―神戸大学附属中等教育学校を舞台に―	ナポレオンの定理の拡張において 核となる四面体と重心で構成される四面体の位置関係	ターン制トレーディングカードゲームにおけるゲームAI設計手法の提案 ―『Pokémon Trading Card Game Pocket』を対象として―
サワガニはどのようにコミュニケーションを行っているのか	マイクロファイバーが指紋汚れを拭き取りやすい最大の原因とは ―スマホ画面に着目して―	プラナリアの再生能力を高めるには 多系統萎縮症への治療効果に期待 ―プラナリアの再生は何に影響されるかに注目して―
ミヤマクワガタの微毛の役割とは	ナミハンミョウの捕食と顎の構造の関係性	ハネカクシの翅を折り畳む構造を利用したエコバッグ作り
トラス橋の横揺れに対する耐久性能をさらに高める方法とは? ―新たな形のトラス橋の提案―	趣味嗜好と好みのタイプに関係性はある か	集中力向上にふさわしいグミの硬さとは
現代のロックバンドブームについて―定量化を用いて―	好きなタイプ形成における推しの影響―魅力要素の比較による人物像の類似性の検討―	中高生の精神的な悩みに対する原因認識の有無とその関連性―質的研究を用いて―
就労下における内科医教育の現状と新たな政策の提案 ―JMECCより―	演歌における音楽理論的な類似性とは	琉球音階の独特な響きは何に起因しているのか
作業時においてホワイトノイズは集中できるか	神大附属購買で売れ残りやすい商品の マーケティング方法の提案 ―商品広告の効果を可視化―	プラスチック製ストローの廃止は 本当に地球環境保護に貢献しているのか
天然忌避成分と合成忌避成分の比較 ―忌避効果、持続性、安全性に着目して―	お弁当において揚げ物のサクサク感を保つには―唐揚げを用いて―	肥料の違いにおける大根の腐敗度合いの違い ―健康目的で購入した野菜は本当に他の野菜と違いがあるのか―
炎色反応を用いた虹色の炎が出るキャンドルの制作―各物質のスペクトル量に注目して―	犬の毛はどのような活用が出来るのか	プラスチックの分解について―海洋汚染を抑えるためには？―
サッカーの練習における ランメニューの削減 ―ソックスの着圧に注目して―	上質紙と再生紙ではどちらが学校教育での使用に適しているのか―計算のしやすさに着目して―	画像生成AIにおける生成AI による一貫性破綻について ―迷路の生成に注目して―
靴ひもをほどけにくくするにはどうすればよいのか	CLTSにおいて、女性はナチュラルリーダーとして活躍しうるのか。 ―ガーナでの実施例とジェンダー規範に着目して―	「遅刻する人」と「しない人」にはどのような違いがあるのか―生活習慣や性格傾向に基づいて―

11　課題研究において、生徒が取り組んだ研究テーマ一覧（令和７年度５年生）

身近な応急処置機器としてのAEDの課題と改良可能性 ―使用者・技術的な観点、倫理的な課題、制度・社会的環境から―	広葉樹のチップと針葉樹のチップによる 燻製の比較	猫を観光資源とした離島における適切な観光プロモーションとは
発酵処理および大豆との相互作用が茶の煎出回数に伴う抗酸化能および成分安定性に及ぼす影響	B.LEAGUEにおけるチーム別勝敗要因の分析	オタクJKの推し活における義務感・罪悪感 ―2.5次元俳優オタクの一人称研究を通じて―
日本の義務教育における自由進度学習の実践拡大に向けた方策の提案―教員・学校管理職・教育行政へのインタビュー調査に基づく考察―	中高生の苦手意識はどのように形成されるのか？ ―昆虫嫌いの原因から考える―	廃校となる小中学校の再生に向けた活用方法の建築的手法の検討 ―リノベーション・コンバージョン建築の視点から ―
小学校外国語授業におけるデジタル機器を用いた語彙指導の考案	中高生の体験する悪夢による苦痛度を測る指標の作成 ―日本人中高生を対象とした指標の信頼性と妥当性の検証―	教師の非言語行動が学習者に与える影響―教科による表出傾向と学習者及び教師による認識の実態―
オノマトペに対するフォント選択の傾向に関する考察 ―言語・視覚表現への接触頻度の違いによる比較分析を通して―	災害時の水資源確保と簡易濾過装置の有効性 -濾過水の色と砂に着目した濾過装置の製作-	S&P500において最適化ポートフォリオは本当に有効か
英文和訳学習のZPDにおける生成AIによるフィードバックの効果検証-「生成AI」と「教師」のあいだに着目して-	定着しやすい流行語と死語になりやすい流行語の違いとは-Google Trendsを用いて-	日焼け止めにおける紫外線防御効果および保湿効果
兵庫県における高校入試の入試方式は適切なのか ―内申点制度は公正なのか―	西晋司馬倫の時代の九品官人法と吏部官僚―吏部尚書の政策と司馬倫の目指した社会―	加熱がスルフォラファン関連成分に 及ぼす影響 ―ブロッコリーに含まれる成分の 安定性に着目して―
本校のKPにおける満足度及びその決定要因と改良策の提案―SSH指定校での課題研究より―	高吸水性ポリマーを用いた作物の生育	駄菓子屋と子どもの発育との関連性―駄菓子屋の教育的価値とは―
平飼い卵の普及率を上げるとともにアニマルウェルフェアの改善のための方法とは？	SNS がアスリートのメンタルヘルスに与え る影響 ―SNSの持つ両面性に注目して―	チーズのメルト性についての考察
災害対策における屋根の形状の利用―積雪による家屋への負担について―	なぜ美容医療は「簡単」に見えてしまうのか―日本と韓国の美容医療広告の表現と規制の比較―	死刑執行期間の短縮方法
MBTIと性格の悪さの関係 ―より安全な友好関係を築くために―	吃音当事者の進路選択や就職活動において、吃音はどのような影響を及ぼすのか ―吃音当事者の経験から―	サッカーにおける強者相手に個で打開することができる選手の育成 ―オフェンス・ディフェンスの両方に着目して―
バスケットボールの試合におけるフリースローの役割と重要性 ―バスケットボールの試合時のシュートの再現性とフリースロー時に行うルーティンの 有効性を踏まえて―	競泳における短距離泳者の 記録向上のための練習メニュー設計 ―長距離専攻と短距離専攻で必要な練習メニューが違うことに着目して―	シャボン玉の安定性に影響を与える要因とは ― 添加物と環境の違いによる安定性の変化―
高校生による小児科病棟での病院ボランティアの考察 ―望まれるボランティア活動の形とは―	構築主義の射程限界 ―日本語は日本人の言語か―	ローマ字入力を使って日本語入力するときの最も効率的なキーの配列とは―日本語がどの音を多用するかに着目して―
神戸空港の国際化に伴う第2ターミナルの課題と改善策 ―空港内消費と市内回遊をつなぐ仕組みに着目して―	デジタル時代の音楽消費におけるJPOPの構造的変遷	動物園における来園者の利用しやすい空間利用
「かわいい」感情の生起要因と 性差に関する一考察	病理解剖による医療の質と診断の信頼性―日本と海外を比較して―	住民の避難行動に着目した防災福祉コミュニティの役割と課題―渦が森地区を事例として―
天然資源を用いたリン酸塩回収法 ―カルシウムによる凝集沈殿法に着目して―	中高生のスマートフォン利用に対する意識とその改善方法 ―統計手法を用いて―	幸福強制社会における 生存戦略としての「永野」 ―「誠実な敗者」が提示する救済と可能性―
食品ロス削減への意識向上を促す学校教育モデルの提案	髪型から受ける第一印象の違い ―前髪が他者に与える印象からの検討―	視聴者の避難を促す災害報道の在り方 ―視聴者に与える心理的影響と避難意志の形成に着目して―
日本の火葬文化について ―日本の宗教観とムスリムの土葬問題を踏まえて―	小中学校における教員不足を解決・緩和するために有効な手立てとは	成長期における人工音声の音の高さによる聞こえやすさの変化 ―成長による音の聞こえやすさの変化に注目した3種類の音声を使った実験の考察―
植物の生体反応と温暖化の関係性 ―サクラの開花時期の推移について―	フォロワーシップを向上させる教育の提案 ―生徒・教員両者の視点から―	都市開発が野球人口に与える影響 ―甲子園と幕張新都心における地域スポーツを比較して―
未成年者保護を目的とした SNS年齢制限制度の課題 ―利用実態と認識の乖離に着目して―	ファストファッション業界における労働環境の改善に関する提言―バングラデシュの事例に見る課題と可能性―	ヨシノボリの腹ビレの機能と使用条件について ―ヨシノボリの生態に着目して―
難民受け入れをめぐる日本の世論と認識の課題―世論調査とインタビューから考える支援の提案―	スピンコーティング条件が ペロブスカイト薄膜の光学特性 および微細構造に与える影響 ―吸光度・発光特性・SEM観察による評価―	低温環境下におけるゴムの弾性低下と劣化モデルの構築 ―引張試験および応力緩和試験による定量的評価―
オルゴール調BGMは急性ストレスの低減に最適であるのか―自然環境音BGMと比較して―	生徒が教師に求める「距離感」は学年によってどのように変化するのか―中高一貫校の生徒を対象としたアンケート調査から―	納豆に含まれるビタミンK2に関する一考察 ―りんご納豆を一例として―
映像作品における感動シーンの分析 -感情移入や伏線との関係性-	ミュージカル『レ・ミゼラブル』の歌詞の変化 -フランス初演版とロンドン初演版の比較を通して-	経営上の価格設定においてAIと人間のどちらがより大きな利益を得られるのか ―価格設定により得られる利益をシミュレーション比較して―
「主体的に学習に取り組む態度」の評価改善 ―総括的評価に偏った「主体性評価」を転換する試みについて―	タンポポコーヒーの含有成分の調査 ―成分の変化に注目して―	救急車の不適切利用を減らすために救急搬送時の選定療養費の徴収は効果的といえるか―茨城県、三重県松阪市での取り組み参考にして―
スクールロイヤー制度の活用の課題とその解決に向けた一考察 _事例分析及び専門家インタビューを通して_	生徒が求める部活動の役割―本校吹奏楽部に着目した質的研究―	医師の働き方を改善するための提案 ―持続可能な医療社会を実現するために―
偏光板とセロハンテープを用いた偏光色の発生条件 ―位相差の不均一性および加算性の検討―	日本が予防歯科において先進国になるための提案―歯科医師育成カリキュラムからの考察、若年層に対するアンケート調査、現役歯科医師に対するインタビューを通して―	二次曲線の一点における曲率円の中心の軌跡
末梢血幹細胞移植において一般的に期待されている効果は希少がんでもみられるか―ランゲルハンス細胞肉腫に着目して―	情報社会における「成熟」とは何を意味するのか -自由・責任・信頼の関係性を通じて、人間の自律的成長を探る-	インターネット依存に対する適切な向き合い方とは ―依存と自己安定感の関連から―
Repunit数の拡張の約数に関する考察	学習空間が生徒間コミュニケーションに及ぼす影響―話しやすい空間は学びを促進するのか―	購買部のお弁当のゴミを きれいに回収するには ―仕掛学を用いて整理する―
SNS環境における若年層の偽情報判別能力に関する考察―加速する「タイパ志向」と情報の受動的消費に注目して―	再生可能エネルギーの課題とこれから	キャプテンシーは育てられるのか ―チームを導く力の本質から育成環境の提案まで―
日本が米の価格高騰を解消するためには―陸稲を活用した供給安定の可能性―	332というリズムパターンについての印象と用法	日本人選手のMLB移籍は、日本プロ野球にどのような影響をもたらすのか
自然に対する意味づけ ―「白鯨」における身体経験と近代的主体の破滅―	ソアリン：ファンタスティック・フライトにおける飛行感覚は、どのような知覚過程によって構成されているのか？ ―五感統合による擬似飛行体験の成立―	ニーチェとニヒリズムの克服
中高生におけるアンケート調査の回答数の増減条件 ―Googleフォームを使用した形式に差異があるアンケートの回答数の比較―	日本における女性の政治参画推進に向けて ―ポジティブアクションに着目して―	兵庫県の私立大学が定員確保の上で抱える課題とその対策 ―インタビュー調査を用いた質的研究―
野球における直前の投球が打球の水平方向の打球角度に及ぼす影響について	アントシアニン誘導体を用いたパーフルオロスルホン酸膜内部の酸塩基平衡の可視化	独立運動の方向性からみる独立欲求の主要な要因の方向性と認識の偏り
漆喰の性能を高めるには―漆喰の成分が及ぼす効果―	トイレ・排泄絵本に関する研究 ―内容分析と類型化を通して―	誰が命を決めるのか―死刑と安楽死にみる日本の家族主義的判断構造―
バレーボールにおける 運動技能と水分補給の関係性 ―水、電解質飲料、カフェイン飲料の効果―	現代テニスにおけるサーブの有効性に関する考察-球速とコースがポイント獲得率に与える影響の比較分析-	運動誘発性筋痙攣（EAMC） の予防法の提案 ―食事で摂取する栄養分と筋痙攣の誘発の関係性―
生徒が関わりたいと感じる教員像とは-生徒と教員の意識の比較から-	持続可能な音楽活動の実現に向けたギター弦の再利用に関する考察 ―周波数成分と減衰特性に基づく再生手法の有効性検証―	クリームの砂糖の量の違いによってマカロンの食感は変わるのか ―官能実験と物理実験を用いて―
待ち時間に対する不公平性は、偏々の待ち時間の長短ではなく、待ち時間分布のエントロピーによって説明可能か ―エントロピーを用いた指標による 優先制度の見直し―	液状化を引き起こす主要因は何か―砂の物理特性に基づく砂・ガラスビーズ比較実験から―	手掌多汗症疾患を持つ患者が より快適に過ごすために 必要な取り組みとは

12　課題研究において、生徒が取り組んだ研究テーマ一覧（令和７年度６年生）

高倉家家系図の分析とその課題	尼崎市の地域通貨「あま咲きコイン」を利用した地域活性化 -若者世代に着目して-	太陽熱温水器における水温上昇条件の解明と集熱力を向上させた温水器の提案
多角的視点を涵養する領土教育の可能性―北方領土問題を題材とした実践的提案―	ペットボトルフリップの成功率を上げるための条件とは	ヒト唾液における抗菌特性の解析 ―グラム陽性菌に対する抑制効果と内因性微生物叢の検討から―
神戸大学附属中等教育学校における歴史編纂の有用性 ―生徒会の組織構成の自己省察的評価―	ジェンガにおいて最も倒れにくい ブロックの抜き方とは	大腸菌に対するショウガの抗菌性 ―濁度法を用いた検証―
歴史教科書における幕末外交史観の変遷 ―嘉永・安政期の記述を中心に―	雨に濡れない最適な傘の差し方の提案	柑橘類の抗菌作用の差異の原因 ―グレープフルーツに着目して―
中高生の食への意識からみる 「環境意識の高い商品」を購入する 動機と障害 ―植物由来の食品を例にして―	免震構造の作用する条件 ―地震の揺れの大きさ、免震構造のエネルギー吸収能力に着目して―	ミニトマトにおける「甘味」について―ミニトマトの色と温度に着目して―
高校生による子ども食堂の運営の提案―2つの事例からみた環境づくり―	運動誘発性筋痙攣の予防への検討 ―芍薬甘草湯と酢酸ドリンクに着目して―	ぬれた紙をきれいにかわかす方法
スーパーの惣菜の利益ロスを下げるには ―条件別のシミュレーションを用いて―	動物実験代替法としてのホヤの可能性―インタビュー調査による論点整理とスコーピングレビューの試みより―	音が植物の生長に及ぼす影響 ―豆苗とカイワレ大根を用いた音環境の比較実験―
リピート率の高いテーマパークの三要素－東京ディズニーリゾートとユニバーサルスタジオジャパンの経営をもとに－	中高生における 片頭痛と花粉症の現状と関係性 ―片頭痛と花粉症の重症度に着目して―	時系列モデルの精度の検証―株価時系列を用いて―
中高生における漢字の色字対応 ―色字対応の形成過程とは―	マウスピース矯正は歯科医師・患者ともに受け入れられる治療方法になり得るか	石取りゲームにおける最善の戦い方とは
AIによる未解読資料の翻刻と翻訳 ―旅行記『東西の記・再遊有馬記』を通して―	読者が誤訳と判断する条件とは何か ― 自然的等価とスコポス理論で読み解く The Giving Tree ―	超過剰数の諸性質と列挙アルゴリズムについて
アメリカ大統領選挙の制度、現代の課題から改善 すべき点の提案 ―フランス、イギリスと比較して―	推しの存在が人々に与える影響とは―自己肯定意識尺度を用いて―	DFS・分割並列化による経路探索アルゴリズムの高速化
言語学からみる環境問題―日本語とスペイン語の「水語彙」に着目して―	グループワークにおけるフリーライダーの影響と抑制方法 ―学校教育におけるグループワークの最適なあり方とは―	カモミールは周囲の植物の成長を促進するのか―「カモミールは植物のお医者さん」？―
K-popダンスにおいて歌詞が伝わるステージ―表情を中心とする踊り方と舞台芸術の観点から―	ディズニー映画におけるアフリカ系アメリカ人の表象 ―アフリカ系アメリカ人を扱うディズニー映画はどうあるべきか―	共通祖先の生育環境の推測 ―アミノ酸配列の推測方法について―
足底メカノレセプターの刺激を目的とする インソールの開発と効果検証	地域の観光業の活性化を目的とした新規 擬人化アプリゲームの提案	いけばなの技術伝承過程の解明と切り花における燃焼法の効果の実証
神戸大学附属中等教育学校の校歌の作詞に関して	キャラクター産業の変遷	生活排水のバイオアッセイにおけるミジンコの有用性と最適なモニタリング方法
開発途上国はどのようにすれば教育が発展していくのか ～ブータンの教育方針から考える～	市場で成功しているパッケージデザインの共通点は何か ―清涼飲料水に注目して―	芸能事務所の誹謗中傷に対する適切な取り組みとは―日韓の比較と改善案の提案―
映像と文字の広告・観光への活用 ―BATTLE OF TOKYOのMVと小説の比較より―	太陽系外惑星wasp-94Abの反射率の推定 ―二次食による光度変化を用いて―	中高生が利用しやすいスクールカウンセリングを実現するには
ギリシア神話の神プロメーテウスは、どのような存在か？	温度半径関係から導かれる新たなHR図モデルの提案	教員の勤務環境の問題とは ―先行研究とインタビュー調査から―
色鉛筆が消えやすい紙の特徴	フライングディスクの形状と飛行の特性	高校生に対する生成AI活用力育成プログラムの提案 ―未来の新技術への柔軟なアプローチ力向上を目指して―
SAP を用いた土壌開発 ―交換性カリウムに着目して―	翼端板形状が飛行に及ぼす影響―紙飛行機を用いた簡便実験による―	「嘘をつく」という行為と人狼ゲームとの関係性
キウイフルーツの追熟に適した方法とは ―硬度と糖度の観点から―	若者の投票率向上を目的とした校内選挙制度の検討―模擬投票の実施と生徒の意識調査を用いて―	中学生の生徒にとっての辛い時や悩んでいる時などに、落ち着ける理想の子ども部屋とは
ニキビ予防における 茶カテキン成分の抗菌作用の有用性 ―皮膚常在菌であるアクネ菌の観点より―	民間企業の宇宙開発と宇宙法 ―法律の改案と有効性の証明―	近年の音楽文化における 間奏のスキップ傾向 ―神戸大学附属中等教育学校生徒を対象として―
日本プロ野球において2番打者にはどのような選手を置くべきか ―シミュレーションを用いた検証から考察する―	日本における少年犯罪と世論	奏者による楽器の音色の違いを生み出す要素とは―倍音成分の比較から―
野球に「流れ」は存在するのか ～攻撃側の流れと守備側の流れの両方に着目して～	死刑制度における処刑方法の検討	日本麻雀における赤ドラの一考察
NPBにおける満塁策の有効性について	How Smells Work on Writing Performance	型システムによる支援の強化を目的としたPython スーパーセットの提案及びそのコンパイラの実装
野球において最適な打順の組み方 ―選手モデリングとシミュレーションを用いて―	口腔教育の適切なタイミングと方法 ―舌位に注目して―	モノポリーにおける勝利条件の分析と新規ルール追加の検討 ―統計および経済学の手法を用いて―
和菓子と洋菓子の認知	生活と共にあるポジティブな防災・減災 ―人と人のつながりのあるコミュニティづくりと具体的な提案―	情報の信頼性に影響与える要因
レタスの鮮度が落ちにくい保存方法とは	避難施設配置設計における課題とその最適化への提案―アクセス性と公平な避難機会確保の観点から―	ねるねるねるねの諸性質と新たなるねるねるねるねの開発の試み
代替肉の普及に向けた消費者意識調査 －中高生を対象としたアンケート調査から－	中高生が参加しやすい防災学習とは ―興味を持ちやすい、知識が身につく 防災学習を目指して―	ヒトの毛髪がもつ油吸着剤としての可能性 ―油濁事故による環境汚染への持続可能な対応―
規格外果実の利用先としてのドライフルーツの検討 ―皮の有無による品質の違いに着目して―	アニメーション映画『思い出のマーニー』にみる、登場人物の言語特徴とその意味	髪の傷む原因について ―髪の傷まないヘアアイロンの提案―
神戸大学附属中等教育学校における反転授業の導入の有効性に対する考察 -英語科の現在完了形の単元に焦点をあてて-	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』における色彩表現の特徴―青い天鵞絨と黒いびろうどに着目して―	神戸市観光業の課題解決に向けたリコメンドシステムの開発と評価
中等教育における協同学習の効果 ―神戸大学附属中等教育学校の小集団活動に注目して―	「禁色」における三島の意図 -「ドリアン・グレイの肖像」との比較を通して-	行政の起業支援策の評価とは ―起業者と支援者の違いに着目して―
授業中の居眠りの傾向と予防 ―居眠りをしたときの外的要因と内的要因に注目して―	外国人労働者のコミュニケーション問題 解消に向けた実践的アプローチ ―3者の立場へのインタビューをもとに―	複数人から1人を選ぶ投票におけるボルダルールの評価 ―市長選挙シミュレーションを用いて―
高校生短距離陸上選手におけるクーリングダウンの方法と強度の最適化への提言 ～主観的運動強度を基準として～	アーティストがより売れる方法―音楽マーケティングに着目して―	台風の弱体化を目的とした氷投下地点の推定及び考察
サッカー未経験者の男子高校生における攻撃の個人技術とサッカーボールの空気圧の条件 ―ドリブル、インサイドパス、インサイドトラップ、インステップキックに着目して―	全国中学体育大会の縮小に対する妥当性の検討と代替案の提案 ―水泳に着目して―	本校の協同学習におけるフリーライダー問題の分析―ゲーム理論を用いて―
日本プロ野球における入場者数から考える日本プロ野球機構（NPB）及び各球団の経営指針 ―各12球団及びセ・リーグ、パ・リーグ、全球団の入場者数を用いて―	ダイナミックマイクによる歌声の音響特性の分析 ―母音、音高、マイクの位置が音色に及ぼす影響―	臓器移植の理解促進に向けた教育的アプローチの検討 ―中等教育段階における意識調査を踏まえて―
宝塚市の土砂災害リスクエリアの居住人口から避難を考える	スネアドラムにおける特有の雑音現象―整数次倍音に着目して―	テレビ視聴時間を増やすにはどうすれば良いのか ―現状とTVerから考える―
北陸新幹線 新大阪延伸に最適なルートとは	スパゲッティを2本に分裂させる方法 ―より簡易な方法を求めて―	アニメの映像作品が、どのように人に感動を喚起させるのか ―映画「鬼滅の刃」無限列車編に基づく考察―